

教育委員会の所管事務に係る 点検・評価原簿

(平成29年度事業)

平成30年6月

桑折町教育委員会

はじめに

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という）の一部が改正され、平成20年4月1日よりすべての教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務づけられました。

この報告書は、桑折町教育委員会が同法の規定に基づき、平成29年度教育委員会重点施策について点検・評価したものまとめたものです。

報告書の作成に当たっては、教育施策の一層の改善・充実を図るため、外部有識者による点検及び評価の知見を活用することとし、平成23年4月1日付けで「桑折町教育委員会の所管に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置規則」を定めました。

以下、所管事務5点について教育委員会各担当者、幼稚園長、小・中学校長が直接評価するとともに、文化財保護審議委員会、社会教育委員会、教育委員会の各委員からの評価を受け、さらには第三者評価委員会による最終評価・点検を受け、報告書としてまとめました。

- 1 子育て支援
- 2 乳幼児保育と教育
- 3 小中学校教育
- 4 生涯学習
- 5 生涯スポーツ
- 6 文化財保護

今年度は、復旧と復興から創生をめざす新しい総合計画『献上桃の郷こおり創生プラン』に基づく諸取組が、2年目を迎えます。

震災・原発事故から7年が経過し、ほぼ完全に震災前の教育活動を行うことができる環境になり、平成25年度末に策定した本町がめざす義務教育修了時の「15歳の姿」の実現を求めて、一段と力強く幼・小・中が保護者や地域と連携して取り組んでいこうとしています。特に、昨年度からスタートした県の「学びのスタンダード」推進事業の研究推進地区として、「授業スタンダード」を受けての授業の質的改善・充実と「家庭学習スタンダード」を受け、保護者と連携して生活習慣の改善及び家庭学習習慣の確立を両輪として、子ども一人ひとりの学力向上をめざしていきます。

つきましては今後も、本町教育の充実・発展のために皆様のご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成30年6月

桑折町教育委員会

目 次

平成29年度桑折町教育委員会重点 1

1 教育委員会の事務の管理及び執行状況

(1) 乳幼児保育の充実、幼稚園教育の充実、幼児教育にかかる経済的支援	13
① 乳幼児保育・教育の充実	13
② 幼稚園統合の取り組み	15
(2) 子ども・子育て支援事業の推進	16
③ 子ども・子育て支援事業の推進	16
(3) 教育内容の充実、教育施設の充実、学校教育にかかる経済的支援	17
① 学習指導の充実と学力向上	17
② 心の教育の充実と生徒指導の推進	18
③ 健康教育の充実と体力向上	19
④ 各種教育課題への取組	20
⑤ 教育施設の整備	21
⑥ 学校教育にかかる経済的支援	21
(4) 生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、他文化交流の促進、青少年健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実	22
① 生涯学習の推進	22
② 多様な学習機会の提供と内容の充実	23
③ 社会教育団体の活動奨励	24
④ 青少年体験活動の積極的推進	25
⑤ 心を豊かにする読書活動の充実	26
⑥ 芸術・文化団体活動の奨励・支援	27
⑦ 施設の効果的・効率的な管理運営	28
(5) 健康・体力づくりをめざす生涯スポーツの推進、体育施設等の充実、青少年健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実	29
① 社会体育事業の推進	29
② 社会体育施設の効率的・効果的な管理運営	30
(6) 歴史資源を活かしたまちづくりの推進、桑折西山城跡整備の推進、文化財やその他の歴史文化遺産、民俗芸能の調査、保存、継承	31
① 「桑折町歴史的風刺維持向上計画」に基づく保護・調査・活用の推進	31
② 史跡桑折西山城跡整備事業の推進	32
③ 旧伊達郡役所・種徳美術館の適切な管理と活用の推進	33
2 教育委員会の校長に委任する事務の管理及び執行状況	
(1) 学校経営評価報告書（小学校4校、中学校1校）	34

(2) 学校経営の自己評価（小学校4校、中学校1校） 50

3 教育委員会の園長に委任する事務の管理及び執行状況

(1) 桑折町こども園経営評価報告書 60

(2) 桑折町こども園経営自己評価のまとめ（幼稚園1園、保育所1所） 62

4 第三者評価委員会による評価

(1) 第三者評価委員会設置に関する規則 66

(2) 第三者評価委員会開催状況及び協議内容 67

平成29年度 桑折町教育委員会重点

I 基本方針

復旧と復興から創生をめざす桑折町総合計画『献上桃の郷こおり創生プラン』に基づき、町の未来像「みんながつながり みんなが活躍できる 安心のまち 桑折」の実現に向け、教育・文化・スポーツ行政を推進する。

II 基本目標

「志高い人材を育む“学び”の醸成」を推進するため、次の目標を定める。

- 1 知・徳・体の基礎を身につけ、高い志を持った「桑折町の15歳のめざす姿」の実現
- 2 幼稚園から小学校・中学校までの育ちと学びの一貫性を大切にした教育の推進
- 3 各世代の学びを醸成する生涯学習活動の推進、社会体育・生涯スポーツ活動、文化芸術活動の振興

III 重点施策

1 子育て支援

- 子ども・子育て支援事業の推進 [子育て支援課]
- 青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実 [生涯学習課]

2 乳幼児保育と教育

- 乳幼児保育の充実、幼稚園教育の充実、幼児教育にかかる経済的支援 [子育て支援課]

3 小中学校教育

- 教育内容の充実、教育施設の充実、学校教育にかかる経済的支援 [学校教育課]

4 生涯学習

- 生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、他文化交流の促進 [生涯学習課]

5 生涯スポーツ

- 健康・体力づくりをめざす生涯スポーツの推進、体育施設等の充実 [生涯学習課]

子育て支援課の重点

- 保育・教育内容の充実及び安全・安心な教育環境の整備を図り、知・徳・体バランスの取れた質の高い教育を推進し、心豊かにたくましく生きる子どもたちを育成する。
- 「桑折町の15歳のめざす姿」の実現をめざし、保育所、幼稚園から小学校、中学校までの育ちと学びの連続性と一貫性を大切した教育を推進する。
- 保護者が安心して子育てできる環境の整備に努める。

1 乳幼児保育・教育の充実

(1) 乳幼児が安全安心に保育・教育を受けるための環境の整備と安全指導の充実に努める。

① 発達に即した環境の整備と施設・設備の点検を実施する。

□ 日常的な施設・設備の安全点検実施

② 防災体制の確立及び日常生活における安全指導の徹底

□ 実効性ある避難訓練等の実施

□ 交通安全教室の実施

③ 食品等のモニタリングによる安全安心な給食を提供する。

□ 食品のモニタリングと結果の公表

(2) 心豊かにたくましく生きる子どもたちを育成するため、知・徳・体バランスの取れた質の高い教育を推進する。

① 保育所保育計画、幼稚園教育計画により保育・教育の充実を図る。

□ 心豊かにたくましく生きる子どもたちを育成するための保育所保育計画、幼稚園教育計画の作成

□ 環境を通しての遊びを中心とした総合的に行う保育・教育活動

② 心の安定と自己肯定感を育む集団づくりに努める。

□ 幼児の言動を肯定的に受け止める保育・教育の実施

□ 自己表出できる友達関係の育成

③ 運動遊びを中心とした体を動かす活動の充実を図る。

□ 体力向上1園(学級)1実践の取組

□ 外部講師による運動遊びの実施

④ 文化や芸術など様々なものに触れ経験する中で豊かな心を育む。

□ 異文化体験活動の推進

□ 読書活動の推進

□ 芸術鑑賞機会の充実

□ 音楽に親しむ活動の推進

□ 飼育、栽培活動の充実

⑤ 総合的な指導力、保育力の向上に努める。

□ 一人1回以上の園内保育研究会の実施

□ 外部講師を招聘しての研修会の実施

□ 先進園への視察研修

- 小学校と連携した保育研究会の実施
- 経営自己評価や指導の自己評価、保護者からの園(所)評価の実施
- 学校評議員会の開催

(3) 特別な支援を必要とする乳幼児の支援体制の確立と指導力の向上に努める。

① 特別な支援を必要とする乳幼児への支援体制を確立する。

- 保育補助・支援員の配置
- 園内委員会の定期的な開催
- 関係機関との連携強化
- 特別支援教育についての保護者の理解促進

② 特別な支援を必要とする乳幼児への支援内容の充実を図る。

- 特別支援教育に関する研修機会の確保

(4) 異校種の教育内容や指導の在り方について共通理解を図り、円滑な接続を意図した保育・教育を推進する。

① こども園内の連携・交流を推進する。

- こども園保育研究会の実施
- 所児と園児の交流活動の実施

② 小・中学校との連携・交流を推進する

- 小・中学校の授業研究会への参加
- 園児と小学生の交流活動の実施
- 職場体験活動等の受け入れ

(5) 家庭における教育力を高めるとともに、開かれた幼稚園づくりに資するため、家庭や地域社会との連携を推進する。

① 家庭及び小・中学校と連携し、望ましい生活習慣の確立に向けた取り組みを推進する。

- 教育講演会の実施
- 「家庭生活習慣のポイント」の広報・活用

② 地域の教育力を生かした保育・教育を推進する。

- 保護者の園行事等への参加
- 地域資源の積極的な活用

2 幼稚園統合の取り組み

(1) 幼稚園統合後の保育・教育環境の整備を図る。

① 望ましい保育・教育環境にするための施設整備を行う。

- 既存園舎の改修

② 園児が安心して生活するための環境づくりに努める。

- 家庭教育学級における保護者への説明
- 少人数園からの移行におけるクラス決定時の配慮

③ 園児及び保護者的一体感を醸成する。

- 統合記念植樹の実施
- 統合記念ファミリーコンサートの開催

④ 職員体制の充実を図る。

- 養護教諭・事務職員の配置

□ 担任外教諭の配置

3 子ども・子育て支援事業の推進

(1) 多様な子育て家庭に対応した事業の推進に努める。

- ① 在宅児への子育て支援策として、地域子育て支援センター事業の充実を図る。
- 未就学児に対する親子遊び場、交流の場の定期的な開催
 - 多様な遊びの提供

- ② 保護者の就労等へ対応した預かり保育・放課後児童健全育成事業の充実を図る。

- 預かり保育支援員打ち合わせ・研修会の実施
- 放課後児童保育支援員による運営体制の構築
- 児童館長による放課後児童保育の巡回強化
- 放課後児童保育実施場所変更に伴う保育環境の整備
- 幼稚園や小学校との情報の共有化
- 長期休業中等を中心とした体験活動の充実
- 特別に支援を要する園児・児童に対する保育の充実

- ③ 子育て家庭の経済的支援の充実を図る。

- 幼稚園入園祝い品（制服）支給事業の実施
- 多子世帯の幼稚園授業料の軽減拡充
- 在宅児の一時預かり保育及び在園・在所児の病児・病後児保育利用料助成事業の実施

(2) 桑折町子ども・子育て支援事業計画を推進する。

- ① 子ども・子育て支援事業の総合的かつ計画的な推進に努める。

- 桑折町子ども・子育て会議の開催

- ② 分かりやすい子育て情報発信の工夫に努める。

- 子育て支援情報誌等の作成及び町ホームページの活用

学校教育課の重点

- 教員の指導力の向上と教育内容の充実を図り、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和的・一体的・関連的な育成を基盤として、児童生徒の「生きる力」をはぐくむ。
- 「桑折町の15歳のめざす姿」の実現をめざし、幼稚園から小学校、中学校までの育ちと学びの連続性と一貫性を大切にした教育を推進する。特に、生活習慣の確立・学力向上・体力向上・生徒指導推進・特別支援教育の充実の5点を重点的に取り組む。

1 学習指導の充実と学力向上

(1) 個の確かな学びをめざし「わかる・できる授業づくり」に努める。

① 学力の実態把握と分析、対策の立案に努める。

□ 町独自の学力検査実施

□ 国・県の学力検査の活用

② 確かな学力の定着と向上を図る授業づくりに努める。

□ 校内授業研究会の充実（外部講師の招聘）

③ 幼稚園、小学校と中学校との連携による授業研究の充実を図る。

□ 研修主任等による推進会議の開催

□ 授業力の向上をめざす授業研究会の公開と交流

□ 1校1指定公開研究授業の充実（内一つは、阿部教授の指導による）

(2) 「確かな学力」の向上を支える基盤づくりに努める。

① 学びの質を高める学習集団を育成する。

□ 「学びのスタンダード」を基本とした学習スタイルの確立と徹底

□ HyperQ-U 検査の実施と「学力とのクロス集計」結果の活用

② 脳科学の研究成果を活用して、学習習慣・生活習慣の確立を図る。

□ 『元気な脳が君たちの未来をひらく』（川島隆太 博士著）を活用した授業の実践

□ 特別授業の実施と「家庭生活習慣のポイント」の広報・活用、実態調査

□ 教務主任等による推進会議の開催

③ 児童生徒の学習を支援する「桑折学習塾」を定期的に開催する。

□ 小学生対象（算数・国語）

□ 中学生対象（数学・英語）

(3) 教育環境の効果的活用を図る。

① 教育機器の効果的な活用に努める。

□ 電子黒板、デジタル教科書等ICTを活用した学習活動の推進

② 学校用図書の充実と豊かな心を育む読書活動の充実を図る。

□ 「読書活動推進計画」に基づく読書活動の積極的な推進（読書調査の実施）

□ 図書ネットワークの活用推進

□ 保護者との連携・協力による「うちどく」の推進 ※毎月23日「家読の日」

- 学校図書館と「遊学館よも～よ」の連携による読書活動の推進
- 学校司書の配置と活用
- ボランティアによる「よみきかせ」や学校図書館の整備による読書環境の充実

(4) 教職員研修の充実を図る。

- ① 児童生徒の学びの姿を中心に据えた研修の充実により教員の専門性を高める。
 - 研修意欲を基盤とした計画的・継続的な実効性のある校内研修の推進
 - 幼稚園、小中学校の連携による授業（保育）研究会を通し、指導の連続性、専門性を深めて教員の資質・能力の向上
 - 先進的な取組の視察とその成果の共有・活用（秋田県視察）
 - 教育委員会指導訪問（年2回）
- ② 学習指導要領についての研修を深め、趣旨を踏まえた教育内容の検討、教育内容の明確化と授業改善に努める。
 - 各種研修の積極的な活用による専門性や実践的指導力の向上
 - 得意分野や生かし相互に認め合い、支え合い、高め合う校内研修の推進

2 心の教育の充実と生徒指導の推進

- (1) 児童生徒と教職員、児童生徒相互の信頼関係や温かい人間関係を醸成する。
 - 体験活動の充実や構成的グループエンカウンター等のグループアプローチの実施
- (2) 児童生徒が人間としての在り方を自覚し、道徳的価値と自己の生き方について考えを深めることができるように「道徳の時間」の指導の充実に努めるとともに、学校の教育活動全体を通して望ましい道徳性を育む。
 - ① 道徳の時間における多様な展開を工夫する。
 - 道徳教育推進教師を中心とし、アクティブに課題を追究する授業づくり
 - ② 意図的・計画的な道徳的実践力を高める場の設定をする。
 - 毎時の道徳授業のポートフォリオ化（道徳ノート等）
 - (3) 体験活動、ボランティア活動を充実させ、郷土を愛する心、命の尊さ、社会性や規範意識などの「豊かな心」を育む。
 - ① 自らが考え、実践できるボランティア活動や体験活動等の奨励と推進を図る。
 - 総合的な学習の時間や土曜学習等でのボランティアや体験活動の実施
 - (4) 学校の教育活動全体に生徒指導の機能を生かし、不登校やいじめのない明るく生き生きとした学校生活の実現を図る。
 - ① 自己指導力を育み、自己肯定感を醸成する生徒指導体制を確立する。
 - 桑折町生徒指導委員会の定期的な開催と充実
 - ② 互いを認め合う、思いやりのある学級集団づくりを行う。
 - Hyper-QU検査の実施と活用
 - ③ 幼稚園を含め、小中学校のきめ細かな情報連携・行動連携を一層推進する。
 - 校長会の不登校対策会議と桑折町生徒指導委員会の連携した取組
 - ④ 児童生徒理解を基盤とした問題行動の未然防止と迅速な対応を図る。
 - 生徒指導研修会の開催（外部講師の招聘）
 - ⑤ いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止等の対策を推進する。
 - いじめ防止年間計画の見直しといじめ防止発見チェックシートの活用

(5) 教育相談の充実に努める。

① 教育相談体制を確立する。

□ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置と活用

② 教育相談の知識や技能を高めるための教職員研修を実施する。

□ 生徒指導研修会の開催（外部講師の招聘）

(6) 情報モラルへの指導の充実に努める。

① 有害情報へのアクセス等による犯罪の実態と被害防止の指導を強化する。

□ SNS モラル授業の実施

□ PTA と連携した SNS モラルに関する研修や啓発活動の実施

3 健康教育の充実と体力向上

(1) 生涯にわたり健康を支える体力づくりに努める。

① 運動身体づくりプログラムの継続的な実践に取り組む。

□ 体育主任による「桑折町体力向上委員会」の充実と体育授業研究会の実施

② 「体力向上 1 校（学級）1 実践」の実施に取り組む。

□ 業間運動や昼休み等の時間の活用（長距離走の奨励）、部活動の奨励

③ 桑折町「子どもの体力向上プラン」にそった体力づくりに努める。

□ 新体力テスト結果分析と対策のための諸取組の充実

(2) 健康に関する理解を深め、自らの健康を適切に管理・改善していく資質や能力を育成する。

① 自己の健康課題を把握し、解決していく学習を推進する。

□ 体育の授業時や防災教育・放射線教育の一環としての学級活動等での授業

② 家庭との連携による健康管理体制と基本的生活習慣を確立する。

□ 「家庭学習習慣のポイント」や「桑折町の 15 歳がめざす姿」の段階的スタンダード等の活用

(3) 食材等のモニタリングにより、安全・安心な給食の提供に努める。

① 食材及び食品のモニタリングと公表を実施する。

□ 町広報紙や「献立表」「給食だより」等での広報

② 安全な食品摂取のための情報提供を実施する。

□ 各校において、PTA 活動と連携した研修会の実施

(4) 学校給食を活用した「食育」の充実に努める。

① 栄養士を中心とした「食育」を推進する。

□ 「食育授業」を明確に教育課程へ位置づけるとともにその実施

4 各種教育課題への取組

(1) 特別支援教育の充実に努める。

① 就学指導の改善に努め、特別な支援を必要とする児童生徒の支援体制の整備・充実を図る。

□ 支援を必要とする児童生徒への支援体制の確立

□ 校内就学指導委員会の活性化と適正な就学指導

□ 各種セミナーや教室等を活用した保護者への啓発活動

② 教育的ニーズに応える研修会を計画的に実施し、指導力の向上を図る。

□ 特別支援教育支援員の研修会を実施（年3回）

□ 教職員の理解を深めるための講演会や研修会の設定

（2）安全教育の充実を図る。

① 身の回りの危険を予測し、自ら回避する能力や態度を育成する。

□ 安全（危険）マップの整備と活用

② 系統的な安全学習と組織的な安全指導に努める。

□ 防災教育の基礎となる基本的な知識に関する指導の充実

□ リスクに対して健康な生活を送るための放射線教育内容の開発と推進

□ 学校環境の適切な安全管理

□ 防災マニュアルの見直しと関係機関との連携

（3）環境教育の充実に努める。

① 低炭素・循環型社会に対応した環境教育を推進する。

□ 学校における廃棄物の減量化やリサイクル、再生エネルギーに関する学習の推進

□ 生活の中でよりよい環境をつくろうとする意欲の喚起と実践指導の充実

（4）ふるさと学習の充実

① 郷土学習を推進し、ふるさとに愛着をもつ機会の拡充に努める。

□ ふるさとの自然、文化や歴史等について「知る」、「学ぶ」学習機会の設定

□ 旧伊達郡役所、種徳美術館、西山城趾、西根堰、半田銀山等の見学学習の推進

② 各教科、総合的な学習の時間や道徳、特別活動、食育、土曜学習等における地域人材の活用や地域素材の教材化を図る。

□ 地域人材バンクの効果的な活用

□ 地域素材の教材化（ふるさと学習や道徳資料等）

（5）国際理解・平和学習の充実

① 外国語活動・英語教育の充実を図る。

□ 学校や地域の実態に応じた指導計画の改善

□ 外国語指導助手、英語指導協力員の効果的な活用

② 異なる文化や価値観を理解し、尊重する態度を育成するとともに平和への意識を高める。

□ 「長崎平和学習」への派遣と平和学習の充実

□ 姉妹都市との交流

5 教育施設の整備

（1）良好な教育施設の整備

① 教育施設の充実を図る。

- 学校教育施設の維持管理と今後の整備のあり方についての検討
- 廃止した学校プールの取扱いの検討

6 学校教育にかかる経済的支援

(1) 子育て世帯への学校教育にかかる経済的支援の強化

- ① 子育て世帯に対応した経済的支援事業の推進に努める。
 - 奨学資金制度の拡充の検討
 - 児童生徒への就学援助支給による経済的負担の軽減
 - 入学児童生徒への入学祝い品（制服）支援事業の実施

生涯学習課の重点

- 今日的課題や多様な町民ニーズの的確な把握に努める。
- 町民が生涯にわたって学習のできる機会と情報の提供に努める。

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

1 生涯学習の推進

(1) 生涯学習推進体制の充実を図る。

□ 「生涯学習推進基本計画」(第2次)に基づく推進体制を確立する。

(2) いつでも、どこでもだれでもが学び合える生涯学習社会の実現のため、情報の提供と町民ニーズに的確に対応する事業を行う。

□ ICT講習会、持ち込み講座の開催支援、女性講座の開催支援

2 多様な学習機会の提供と内容の充実

(1) 乳幼児期から高齢期までの各ライフステージに応じて、求められる知識や技能を適切に提供することができるよう内容の充実を図り、創造的で活力のある活動の展開に努める。

□ 姉妹都市交流事業

□ こおりキッズスクール、こおり友遊くらぶ、かやのき学園

3 社会教育団体の活動奨励

(1) 家庭、学校、地域及び社会教育団体との連携を図るとともに、自主的学習を推進するサークル等の活動を奨励・支援する。

□ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施

□ 親子教室の開催支援

4 青少年体験活動の積極的推進

(1) 地域の教育力の活用を図り、青少年の体験活動・ボランティア活動を積極的に推進する。

□ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業の実施

□ 学校支援地域本部事業の実施

□ こおり地域クラブの実施

(2) 町の将来を担う青少年に、健全成長と郷土愛をはぐくむために通過儀礼として以下の事業を実施する。

□ 中学2年生を対象に、将来への志を高める「立志式」

□ 成人を祝い、大人としての自覚を促す「成人式」

5 心を豊かにする読書活動の充実

- (1) 遊學館「よも～よ」の読書環境・学習環境の充実を図り、親しまれる運営に努める。
 - 桑折町読書活動推進計画に基づく学校図書室との連携、図書ネットワークの推進
- (2) 町民への図書の紹介や幼・小・中学校との連携を図り、図書の有効活用・読書活動の充実に努める。
 - ブックスタート事業の実施
 - ファミリー文庫おはなしの会の実施

6 芸術・文化団体活動の奨励・支援

- (1) 町民の自主的な芸術文化活動を奨励・支援するとともに、活動成果発表や鑑賞機会としての総合文化祭の充実に努める。
 - 文化講演会の開催
 - 高齢者作品展の実施
 - 文化団体連絡協議会活動支援

7 社会教育施設の効率的・効果的な管理運営に努める。

- 各施設の効果的利活用と安全維持管理

II 健康づくりをめざす社会体育・生涯スポーツの振興

1 社会体育事業の推進

- (1) 身近な体育・スポーツ活動を通して、生涯にわたって健康の保持増進と生きがいづくりに努める。
 - 各種スポーツ大会の開催や健康関係の講演会等の実施
- (2) 総合型地域スポーツクラブや体育協会に加盟する団体の自主的活動を奨励し、各種事業での連携を進め、生涯スポーツの振興に努める。
 - 町民体育祭及び各種スポーツ大会の開催と加盟団体主催大会の支援
 - 「マルベリーこおり」「町体育協会」との連携の推進

2 社会体育施設の効率的・効果的な管理運営に努める。

- (1) 「イコーゼ！」(屋内温水プール・多目的スタジオ)の安定的かつ効率的な利活用に努める。
 - 水泳の授業並びに桑折町小学校水泳大会の開催
 - 各種水泳教室の企画及び実施
 - 夏季休業中におけるPTAとの連携したプール解放の実施
 - 屋内遊び場の活用コンテンツの提供
- (2) 「町民体育館」「桑折テニスコート」及び周辺施設の、整備・安全維持管理に努める。
 - 施設利用者用駐車場の拡充整備
 - 桑折テニスコートの人工芝張替補修

III 文化財の保護活用

- 「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づく歴史資源を活かしたまちづくりの推進を図る。
- 桑折西山城跡整備の推進を図る。
- 文化財やその他の歴史文化遺産、民俗芸能の調査、保存、継承に努める。

※ 文化財及び歴史的遺産の総合的な保存・活用・整備を推進するため、町部局と共同で歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画を推進するため、当分の間、文化財関係事務取扱に関しては、町部局が補助執行する。

1 「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づく文化財の保護・調査・活用の推進

- (1) 「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づき、文化財や歴史的遺産の保存と活用を図るとともに、歴史的風致の概念に合致しない歴史的文化遺産、民族芸能については同計画と連携しながら調査保存・継承に取り組む。
- (2) 文化財や補修の必要な文化財の復旧に努めるとともに、文化財の調査成果の公表と未指定文化財の指定と保存を図り、文化財保護精神の継承と郷土の歴史的文化継承の普及啓発に努める。

2 史跡西山城跡保存整備事業の推進

- (1) 「史跡桑折西山城整備基本計画」「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づき、史跡及びその周辺の整備事業を推進するとともに、適切な保存管理及び公開に努める。

3 旧伊達郡役所・種徳美術館の適切な管理と活用の推進

- (1) 旧伊達郡役所の適切な保存管理と建物の公開・活用に努める。
- (2) 種徳美術館の適切な管理と所蔵品の公開に努める。

1 教育委員会の事務の管理及び執行状況

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価
重点施策…乳幼児保育の充実、幼稚園教育の充実、幼児教育にかかる経済的支援
1 乳幼児保育・教育の充実 子育て支援課

重 点 施 策	(1) 乳幼児が安全安心に保育・教育を受けるための環境の整備と安全指導の充実に努める。 (2) 心豊かにたくましく生きる子どもたちを育成するため、知・徳・体バランスの取れた質の高い教育を推進する。 (3) 特別な支援を必要とする乳幼児の支援体制の確立と指導力の向上に努める。 (4) 異校種の教育内容や指導のあり方について共通理解を図り、円滑な接続を意図した保育・教育を推進する。 (5) 家庭における教育力を高めるとともに、開かれた幼稚園づくりに資するため、家庭や地域社会との連携を推進する。
重 点 項 目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達に即した環境の整備と施設・設備の点検をする。 ○ 防災体制の確立及び日常生活における安全指導の徹底 ○ 食品等のモニタリングによる安全安心な給食を提供する。 ○ 保育所保育計画、幼稚園教育計画により保育・教育の充実を図る。 ○ 心の安定と自己肯定感を育む集団づくりに努める。 ○ 運動遊びを中心とした体を動かす活動の充実を図る。 ○ 文化や芸術など様々なものに触れ経験する中で豊かな心を育む。 ○ 総合的な指導力、保育力の向上に努める。 ○ 特別な支援を必要とする乳幼児の支援体制を確立する。 ○ 特別な支援を必要とする乳幼児の支援内容を充実する。 ○ こども園内の連携・交流を推進する。 ○ 小・中学校との連携・交流を推進する。 ○ 家庭及び小・中学校と連携し、望ましい生活習慣の確立に向けた取組を推進する。 ○ 地域の教育力を活かした保育・教育を推進する。
具 体 的 な 活 動	<ul style="list-style-type: none"> □ 日常的な施設・設備の安全点検の実施 □ 実効性のある避難訓練等の実施 □ 交通安全教室の実施 □ 食品のモニタリングと結果の公表 □ 心豊かにたくましく生きる子どもたちを育成するための保育所保育計画、幼稚園教育計画の作成 □ 環境を通しての遊びを中心とした総合的に行う保育・教育活動 □ 幼児の言動を肯定的に受け止める保育・教育の実施 □ 自己表出できる友達関係の育成 □ 体力向上1園（学級）1実践の取組 □ 外部講師による運動遊びの実施 □ 異文化体験活動の推進 □ 読書活動の推進 □ 芸術鑑賞機会の充実 □ 音楽に親しむ活動の充実 □ 飼育、栽培活動の充実 □ 一人1回以上の園内保育研究会の実施 □ 外部講師を招聘しての研修会の実施 □ 先進園への視察研修 □ 小学校と連携した保育研究会の実施 □ 経営自己評価や指導の自己評価、保護者からの園（所）評価の実施 □ 学校評議員会の開催 □ 保育補助・支援員の配置 □ 園内委員会の定期的な開催 □ 園児の支援のための関係機関との連携強化

	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 特別支援教育についての保護者の理解促進 <input type="checkbox"/> 特別支援教育に関する研修機会の確保 <input type="checkbox"/> こども園保育研究会の実施 <input type="checkbox"/> 所児と園児の交流活動の実施 <input type="checkbox"/> 小・中学校の授業研究会への参加 <input type="checkbox"/> 園児と小学生の交流活動の実施 <input type="checkbox"/> 中学生の職場体験活動等の受け入れ <input type="checkbox"/> 教育講演会の実施 <input type="checkbox"/> 「家庭生活習慣のポイント」の広報・活用 <input type="checkbox"/> 保護者の園内行事等への参加 <input type="checkbox"/> 地域資源（人材・教材等）の積極的活用 	
成 果・評 価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設設備の点検に万全を期したことで、大きな事故けがなく過ごすことができた。また、火災、地震等の災害、不審者対応、ミサイル発射等に対する避難訓練や交通安全教室を定期的に実施し、危機管理体制の構築に努めるとともに、園児、職員の意識の高揚を図ることができた。 ○ 保育所給食のモニタリングを行い、常に安心安全な給食を提供することができた。 ○ 教育計画に基づき園の重点目標を意識し系統性を持った指導を行った結果、一人ひとりが自分の力を發揮しながら友達と一緒に主体的に遊びを進める姿が見られ、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につなげることが出来た。 ○ 個に応じた指導を心掛けることで、一人ひとりに寄り添い心の安定を図ることができた。また、できるようになったことやがんばったことを皆の前で認めてやることで、自己肯定感も高まるとともに友達の良いところも認められるようになった。 ○ 年間を通して計画的に運動遊びに取組むとともに、外部講師を招いてストリートダンスやサッカー教室等を実施した。それにより、昨年度より体力面が向上した。 ○ ファミリーコンサートやシルエット劇、人形劇、ピアノコンサート等を鑑賞し、きれいな物や感動する物に多く触れさせることで、豊かな心や感性を育むことができた。 ○ 学年主任及び教務主任を中心に、総合的な指導力を高めるために、講師を招いての保育研究会や現職教育のテーマに沿った研修会を行ったことで、一人ひとりの保育力が向上した。 ○ 特別な支援を要する幼児については、家庭や関係機関と十分に話し合う機会を持ったことで、幼児の実態を園全体で捉える事ができ、指導の効果をあげることができた。 ○ こども園内の連携・交流を行うことで、園児に対するあこがれの気持ちを持つたり、所児に対して思いやる優しい気持ちを持たせたりすることができた。 ○ 小・中学校との連携・交流を計画的に行うことで、幼稚園で育てておくべき事が明確になり、意識して保育にあたることができた。 ○ 家庭及び小中学校と連携し、望ましい生活習慣の確立に向けた取り組みの啓発に努めた。特に今年度は、川島隆太先生をお招きし、脳科学の面から保護者向けに講話をいただいたことで、保護者の意識の高揚を図ることができた。 ○ 地域の教育力を生かし幼・保それぞれにサロン交流会を経験した。様々な人々の優しさに触れると共に人の役に立つことの嬉しさを感じ取っていた。 	
改善・充実策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭における幼児の望ましい生活習慣について理解はしているものの、生活実態を近づけようと努力するまでに至らない家庭が見られ、格差の広がりが感じられる。園での生活や小学校以降の学びに大きく影響することを知らせ、理解を図っていく。 ○ 絵本に親しませ、幼児一人一人の情緒面や知的好奇心を育むために、絵本コーナーをさらに充実させていく。 	
第三者評価委員評価	B	A 大変良い B 良い C やや悪い D 悪い
教育委員評価	B	
担当者自己評価	B	

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価
 重点施策…乳幼児保育の充実、幼稚園教育の充実、幼児教育にかかる経済的支援
 2 幼稚園統合の取り組み

子育て支援課

重 点 施 策	(1) 幼稚園統合後の保育・教育環境の整備を図る。
重 点 項 目	<ul style="list-style-type: none"> ① 望ましい保育・教育環境にするための施設整備を行う。 ② 園児が安心して生活するための環境づくりに努める。 ③ 園児及び保護者の一体感を醸成する。 ④ 職員体制の充実を図る。
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 既存園舎の改修 <input type="checkbox"/> 家庭教育学級における保護者への説明 <input type="checkbox"/> 少人数園からの移行におけるクラス決定時の配慮 <input type="checkbox"/> 統合記念植樹の実施 <input type="checkbox"/> 総合記念ファミリーコンサートの開催 <input type="checkbox"/> 養護教諭・事務職員の配置 <input type="checkbox"/> 担任外教諭の配置
成 果 ・ 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既存園舎と増築園舎を接続する渡り廊下の設置や保健室の新設等を行い、保育・教育環境の充実を図った。 ○ 少人数の園からの移行において、今までの友達関係が引き継がれるようにクラスを決定したことで、不安定になることなくスムーズに移行出来た。 ○ 統合を記念し、花ももの木の植樹やファミリーコンサートを行い、園に親しみを持ち、園児・保護者の一体感を図ることが出来た。 ○ 職員体制の充実の面では、事務・養護教諭・担任外の教諭の充実がなされたことで、安全・安心な保育の充実を図る事が出来た。
改善・充実策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 統合に合わせ、園庭が広くなり、また、ブランコ等の遊具も更新したので、さらに戸外での遊びを積極的に取り入れ運動能力、体力の向上を図っていく。 ○ 複合遊具については、老朽化及び現在の安全基準を満たしていないため、現在、使用禁止にしている。安全確保のため早急に取り壊しとともに新たな遊具の設置を検討していく。
第三者評価委員評価	A
教育委員評価	A
担当者自己評価	A
	A大変良い B良い Cやや悪い D悪い

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…子ども・子育て支援事業の推進

青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

3 子ども・子育て支援事業の推進

子育て支援課

重点施策	(1) 多様な子育て家庭に対応した事業の推進に努める。 (2) 桑折町子ども・子育て支援事業計画を推進する。
重点項目	① 在宅児への子育て支援策として、地域子育て支援センター事業の充実を図る。 ② 保護者の就労等へ対応した預かり保育・放課後児童健全育成事業の充実を図る。 ③ 子育て家庭の経済的支援の充実を図る。 ④ 子ども・子育て支援事業の総合的かつ計画的な推進に努める。 ⑤ わかりやすい子育て情報発信の工夫に努める。
具体的な活動	<input type="checkbox"/> 未就学児に対する親子遊び場、交流の場の定期的な開催 <input type="checkbox"/> 多様な遊び場の提供 <input type="checkbox"/> 預かり保育支援員打合せ・研修会の実施 <input type="checkbox"/> 放課後児童保育支援員による運営体制の構築 <input type="checkbox"/> 児童館長による放課後児童保育の巡回強化 <input type="checkbox"/> 放課後児童保育実施場所変更に伴う保育環境の整備 <input type="checkbox"/> 幼稚園や小学校との情報の共有化 <input type="checkbox"/> 長期休業中等を中心とした体験活動の充実 <input type="checkbox"/> 特別に支援を要する園児・児童に対する保育の充実 <input type="checkbox"/> 幼稚園入園祝い品（制服）支給事業の実施 <input type="checkbox"/> 多子世帯の幼稚園授業料の軽減拡充 <input type="checkbox"/> 在宅児の一時預かり保育及び在園・在宅児の病児・病後児保育利用料助成事業の実施 <input type="checkbox"/> 桑折町子ども・子育て会議の実施 <input type="checkbox"/> 子育て支援情報誌等の作成及び町ホームページの活用
成果・評価	○子育て支援センター事業では、季節に応じた行事や保育所・幼稚園と連携した内容を取り入れ、乳幼児や保護者に好評であった。 ○預かり・放課後児童保育支援員の研修会や随時の指導、児童館長による巡回指導により、運営上の課題等に早期に対応することができた。また幼稚園統合による実施場所の変更に対応し、施設の環境を整備した。 ○預かり・放課後児童保育では、長期休業中等を中心に様々な体験活動を実施し、子供たちの豊かな心の醸成と健全育成につなげることができた。また幼稚園・小学校と連携を密にし、情報の共有化に努め、園児・児童の保育の充実を図った他、支援員が研修会等に参加し個々のスキルアップに努め、特別に支援を要する園児・児童に対する保育の充実も図った。 ○多子世帯の幼稚園授業料軽減や入園祝い品（制服）支給事業、在宅児の一時預かり保育及び在園・在所児の病児・病後児保育利用助成事業を行い、保護者の経済的負担の軽減を図った。 ○桑折町子ども・子育て会議及び推進委員会を開催し、委員からの意見を参考にしたうえで事業推進に努めた。また11月にも会議を開催し計画の見直しを行った。 ○「子育て総合情報誌」及び概要版『子育て応援ガイドブック』を作成し、各戸配付や関係機関等への配布、町ホームページへの掲載を行い、情報発信に努めた。
改善・充実策	○放課後児童保育運営体制の確立を図り保育の充実に努める。 ○子育てに関するニーズ調査を実施し、次期子ども・子育て支援事業計画策定に繋げる。
第三者評価委員評価	A
教育委員評価	A
担当者自己評価	A
	A 大変良い B 良い C やや悪い D 悪い

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価表
重点施策…教育内容の充実、教育施設の充実、学校教育にかかる経済的支援
1 学習指導の充実と学力向上

学校教育課

重点施設	(1) 個の確かな学びをめざし「わかる・できる授業づくり」に努める (2) 「確かな学力」の向上を支える基盤づくりに努める (3) 教育環境の効果的活用を図る (4) 教職員研修の充実を図る
重点項目	① 学力の実態把握と分析、対策に立案に努める ② 確かな学力の定着と向上を図る授業づくりに努める ③ 幼稚園、小学校と中学校との連携による授業研究の充実を図る ④ 学びの質を高める学習集団づくりに努める ⑤ 脳科学の研究成果を活用して、学習習慣・生活習慣の確立を図る ⑥ 児童生徒の学習を支援する「桑折学習塾」を定期的に開催する ⑦ 教育機器の効果的な活用に努める ⑧ 学校用図書と豊かな心を育む読書活動の充実を図る ⑨ 児童生徒の学びの姿を中心に据えた研修の充実により教員の専門性を高める ⑩ 学習指導要領についての研修を深め、趣旨を踏まえた教育内容の検討、教育方法の明確化と授業改善に努める
具体的な活動	<input type="checkbox"/> 町独自の学力検査（NRT等）実施 <input type="checkbox"/> 国・県の学力検査の活用 <input type="checkbox"/> 校内授業研究会の充実（外部講師の活用） <input type="checkbox"/> 研修主任等による推進会議の開催 <input type="checkbox"/> 授業力の向上をめざす授業研究会の公開と交流 <input type="checkbox"/> 1校1指定公開授業研究会の充実（内一つは、秋田大学 阿部教授の指導） <input type="checkbox"/> 「学びの（授業）スタイル」を基本とした学習スタイルの確立と徹底 <input type="checkbox"/> HyperQU検査の実施とその「学力とのクロス集計」結果の活用 <input type="checkbox"/> 『元気な脳が君たちの未来を拓く』を活用した特別授業の実施 <input type="checkbox"/> 「家庭生活習慣のポイント」の広報・活用と実態調査 <input type="checkbox"/> 教務主任による生活改善のための推進会議の開催 <input type="checkbox"/> 桑折学習塾の開催（小学生対象と中学生対象） <input type="checkbox"/> 電子黒板、デジタル教科書等ICTを活用した学習活動の推進 <input type="checkbox"/> 「読書活動推進計画」に基づく読書活動の積極的な推進と読書調査の実施 <input type="checkbox"/> 図書ネットワークの活用推進 <input type="checkbox"/> 学校司書の活用 <input type="checkbox"/> 保護者との連携・協力による「うちどく」の推進（※毎月23日「家読の日」） <input type="checkbox"/> 学校図書と「遊学館よも～よ」の連携による読書活動の推進 <input type="checkbox"/> ボランティアによる「よみきかせ」や学校図書館の整備による読書環境の整備 <input type="checkbox"/> 計画的・継続的な実効性のある校内研修の推進 <input type="checkbox"/> 幼稚園、小中学校の連携による授業研究会を通じ、指導の連続性、専門性を深めて教員の資質能力の向上 <input type="checkbox"/> 教育委員会指導訪問（年2回） <input type="checkbox"/> 先進的な取組の視察とその成果を共有・活用（秋田県視察2回）
成果・評価	<input type="radio"/> 県教委の施策「学びのスタイル」推進事業を活用し、各校の授業改善を中心取り組んできた。1校1指定公開授業を始めとする、のべ38回の授業研究会等を行い、各校の研究成果の共有化を図ることができた。 <input type="radio"/> 子どもの集中力と基礎学力を高めるために、年度途中から「読み・書き・計算」の徹底反復を実施した。子どもの変容がある程度見られるようになり、内容や方法、時間の確保等の改善点もある。また「家読」等の読書に関しては習慣化について課題が多い。 <input type="radio"/> 全体的に子どもの学力は向上傾向があるが、生活習慣の改善や家庭学習習慣の確立に関しては、まだまだ個人差が大きく働きかけの工夫が必要である。
改善・充実策	<input type="radio"/> 学校の多忙化解消に向けて、教育委員会の取組を中心に各種行事の精選や実施方法等の見直しを図ってきた。来年度は「桑折町行事精選検討委員会」を立ち上げ、総合的に見直して精選を図りたい。 <input type="radio"/> 授業研究会のあり方を工夫して、より授業者個々の授業力向上を図る形に改善したい。また、授業改善は阿部教授、生活習慣改善は川島教授の理論を基に取り組み、講演会や授業づくり講習会、秋田県への教員視察等を継続したい。 <input type="radio"/> 現在中学校にいる学校司書を、小学校に巡回訪問できるようにし、図書室の整理と児童・生徒が本に親しみやすい・活用しやすい環境を整える。
第三者評価委員評価	A
教育委員評価	B
担当者自己評価	B
	A 大変よい B 良い C やや悪い D 悪い

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価表
重点施策…教育内容の充実、教育施設の充実、学校教育にかかる経済的支援
2 心の教育の充実と生徒指導の推進

学校教育課

重点施設	<ul style="list-style-type: none"> (1) 児童生徒と教職員、児童生徒相互の信頼関係や温かい人間関係を醸成する (2) 児童生徒が人間としてのあり方を自覚し、道徳的価値と自己の生き方について考えを深めることができるように「道徳の時間」の指導の充実に努めるとともに、学校の教育活動全体を通して望ましい道徳性を育む。 (3) 体験活動、ボランティア活動を充実させ、郷土を愛する心、命の尊さ、社会性や規範意識などの「豊かな心」を育む (4) 学校の教育活動全体に生徒指導の機能を活かし、不登校やいじめのない明るく生き生きとした学校生活の実現を図る。 (5) 教育相談の充実に努める (6) 情報モラルへの指導の充実に努める
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ① 道徳の時間における多様な展開を工夫する ② 意図的・計画的な道徳的実践力を高める場を設定する ③ 自ら考え、実践できるボランティア活動や体験活動等の奨励と推進を図る ④ 自己指導力を育み、自己肯定感を醸成する生徒指導体制を確立する ⑤ 互いに認め合う、思いやりのある学級集団づくりを行う ⑥ 幼稚園を含め、小中学校のきめ細やかな情報連携・行動連携を一層推進する ⑦ 児童生徒理解を基盤とした問題行動の未然防止と迅速な対応を図る ⑧ いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止等の対策を推進する ⑨ 教育相談の充実に努める ⑩ 教育相談の知識や技能を高めるための教職員研修を実施する ⑪ 有害情報へのアクセス等による犯罪の実態と被害防止の指導を強化する
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 体験活動の充実や構成的グループ エンカウスター等のグループ アプローチの実施 <input type="checkbox"/> 道徳教育推進教師を中心とし、アクティブに課題を追究する授業づくり <input type="checkbox"/> 毎時の道徳授業のポートフォリオ化（道徳ノート等） <input type="checkbox"/> 総合的学習の時間や土曜学習等でのボランティア活動や体験活動の実施 <input type="checkbox"/> 桑折町生徒指導員会の定期的な開催と充実 <input type="checkbox"/> Hyper-QU 検査の実施と活用 <input type="checkbox"/> 町校長会の不登校対策会議と桑折町生徒指導委員会の連携した取組 <input type="checkbox"/> 生徒指導研修会の開催（町及び校内での研修会時に外部講師の招聘） <input type="checkbox"/> いじめ防止年間計画の見直しといじめ防止発見チェックリストの活用 <input type="checkbox"/> スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置と活用 <input type="checkbox"/> SNS モラル授業の実施 <input type="checkbox"/> PTA と連携した SNS モラルに関する研修や啓発運動の実施
成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校は、体験活動やボランティア活動に良く取り組み、豊かな心や郷土愛を養っている。中学校は、職業調べや職場体験等のキャリア教育を中心に「桑折町のめざす15歳の姿」の実現を図ろうとしている。 ○ 各校で「アクティブな道徳」の授業をめざして取り組んでいるが、依然として読み取り中心の道徳的価値優先の授業が見受けられる。また、道徳ノートや毎時の授業のポートフォリオ化して子ども変容を見取る等、改善が必要である。 ○ QU を2回実施して、学級の変容を把握して学級づくりや生徒指導に役立てた。また、町不登校対策会議を2回実施して小中連携のもとに不登校生徒の減少に努めた結果、中1の不登校生徒の出現率が大きく下がった。 ○ 町の SC や SSW を加えて各校で「いじめ対策委員会」を開催し、いじめの発生防止に努めた。
改善・充実策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験活動やボランティア活動、職場体験等の諸体験を授業や学校生活に結び付け、幼小中の連携の下に「キャリア教育」の視点から体験内容見直して、「桑折町がめざす15歳の姿」の実現を図りたい。 ○ 平成30年度から小学校は道徳が教科（中学校は平成31年度から）になり、評価が加わるので、評価の仕方を念頭に置き、授業研究会等を通して授業改善を図るとともに、個人の記録を残し評価につながるよう転換を図りたい。 ○ QU や諸アンケート調査から、生徒個々の実態を明らかにして個別相談の充実を図りたい。また、生徒指導の諸会議において、現状報告だけでなく各校の諸課題の解決に役立つよう、会議のあり方を工夫したい。
第三者評価委員評価	B
教育委員評価	B
担当者自己評価	B
	A 大変よい B 良い C やや悪い D 悪い

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価表

重点施策…教育内容の充実、教育施設の充実、学校教育にかかる経済的支援

3 健康教育の充実と体力向上

学校教育課

重点施設	(1) 生涯にわたり健康を支える体力づくりに努める (2) 健康に関する理解を深め、自らの健康を適切に管理・改善していく脂質や能力を育成する。 (3) 食材等のモニタリングにより、安全・安心な学校給食の提供に努める。 (4) 学校給食を活用した「食育」を推進する
重点項目	① 運動身体づくりプログラムの継続的な実践に取り組む ② 「体力向上1校（学級）1実践」の実施に取り組む ③ 桑折町「子どもの体力向上プラン」にそった体力づくりに努める ④ 自己の健康課題を把握し、解決していく学習を推進する ⑤ 家庭との連携による健康管理体制と基本的生活習慣を確立する ⑥ 食材及び食品のモニタリングと公表を実施する ⑦ 安全な食品摂取のための情報提供を実施する ⑧ 栄養士を中心とした「食育」を推進する
具体的な活動	<input type="checkbox"/> 体育主任による「桑折町体力向上委員会」の充実と体育授業研究会の実施 <input type="checkbox"/> 小学校は、業間運動や昼休み時間の活用（長距離走の奨励等）、中学校においては活動の奨励 <input type="checkbox"/> 身体力テストの結果分析と対策のための諸取組の充実 <input type="checkbox"/> 健康教育のために、体育の授業時や防災教育・放射線教育の一環として学級活動等で授業実施 <input type="checkbox"/> 望ましい生活習慣の確立のため、「家庭生活習慣のポイント」や「桑折町の15歳がめざす姿」の段階的スタンダードの活用 <input type="checkbox"/> 食のモニタリングの結果を町広報紙や「献立表」「給食便り」等での広報 <input type="checkbox"/> 食の安全・安心をめざし、PTA活動と連動した研修会・講演会の実施 <input type="checkbox"/> 「食育授業」を明確に教育課程へ位置づけるとともにその実施
成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新体力テスト、全国体力・運動能力等調査の結果によると、児童生徒の体力や運動能力は、全国や県に比べて上回り改善傾向が見られるが、肥満（傾向を含む）児出現率は、昨年に引き続き高い。1週間当たりの運動総時間も中2女子以外は、全国平均を下回っている。 ○ 運動身体づくりプログラムを取り入れた毎時の授業は定着してきたが、プログラムの一部部分だけを取り入れた授業が多く見られた。 ○ 体力向上1校1実践は各校で定着しており、体力や走力の向上に役立っている。 ○ 生活習慣の各種アンケート調査によると、朝食や睡眠時間等の基本的な生活習慣はほぼ身に付いてきている。更に自律的な生活態度をめざしたい。 ○ 給食センターの栄養技師を招いた食育授業やバイキング給食やテーブルマナー、リクエスト給食等を通じ児童生徒の給食への感心を高めたが、保護者対象の食育講演会等は開催できなかった。
改善・充実策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育の授業では、指示・説明・発問等を工夫して、なるべく多くの運動量を保障することにより、児童・生徒の体力や運動能力の更なる向上を図りたい。 ○ 桑折町体力向上委員会で、子ども達の生活運動時間の不足が話題になった。自分の体力に自信がない生徒も多い。自力での登・下校などを保護者に呼びかけるとともに、担当者だけでなく地域と共に学校全体で総合的に、望ましい運動習慣の確立・運動時間の確保に向けて取組を強化したい。 ○ 食育に関しては、保護者への啓発が重要である。食に関する講演会等を企画して、親子で取り組む食育、望ましい食生活習慣の確立へと結び付けたい。
第三者評価委員評価	B
教育委員評価	B
担当者自己評価	B
	A 大変よい B 良い C やや悪い D 悪い

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価表
重点施策…教育内容の充実、教育施設の充実、学校教育にかかる経済的支援
4 各種教育課題への取組

学校教育課

重点施設	(1) 特別支援教育の充実に努める (2) 安全教育の充実を図る (3) 環境教育の充実に努める (4) ふるさと学習の充実に努める (5) 国際理解・平和学習の充実に努める	
重点項目	① 就学指導の改善に努め、特別な支援を必要とする児童生徒への支援体制の整備・充実を図る ② 教育的ニーズに応える研修会を計画的に実施し、指導力の向上を図る ③ 身の回りの危険を予測し、自ら回避する能力や態度を養う ④ 系統的な安全学習と組織的な安全指導に努める ⑤ 低炭素・循環型社会に対応した環境教育を推進する ⑥ 郷土学習を推進し、ふるさとに愛着をもつ機会の拡充に努める ⑦ 各教科、総合的な学習の時間や道徳、特別活動、食育、土曜学習等における地域人材の活用や地域素材の教材化を図る ⑧ 外国語活動・英語教育の充実を図る ⑨ 異なる文化や価値観を理解し、それらを尊重する態度を育成するとともに平和への意識を高める。	
具体的な活動	<input type="checkbox"/> 支援を必要とする児童生徒への支援体制の確立 <input type="checkbox"/> 校内就学指導委員会の活性化と適正な就学指導 <input type="checkbox"/> 各種セミナーや講演会、教室等を活用した保護者への啓発活動 <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員の研修会の実施（年3回） <input type="checkbox"/> 教職員の理解を深めるための講演会や研修会の実施 <input type="checkbox"/> 安全(危険)マップの整備と活用 <input type="checkbox"/> 防災教育の基礎となる基本的な知識に関する指導の充実 <input type="checkbox"/> リスクに対して健康的な生活を送るための放射線教育内容の開発と推進 <input type="checkbox"/> 学校環境の適切な安全管理 <input type="checkbox"/> 防災マニュアルの見直しと関係機関との連携 <input type="checkbox"/> 学校における廃棄物の減量化やリサイクル、再生エネルギーに関する学習の推進 <input type="checkbox"/> 生活の中で、よりよい環境をつくろうとする意欲の喚起と実践指導の充実 <input type="checkbox"/> ふるさとの自然、文化や歴史等について「知る」「学ぶ」学習機会の設定 <input type="checkbox"/> 旧郡役所、種徳美術館、西山城址、西根堰、半田銀山等の見学学習の推進 <input type="checkbox"/> 地域人材バンクの効果的な活用 <input type="checkbox"/> 地域素材の教材化（ふるさと学習や道徳資料など） <input type="checkbox"/> 外国語活動において、学校や地域の実態に応じた指導計画の改善 <input type="checkbox"/> 外国語指導助手、英語指導協力員の効果的な活用 <input type="checkbox"/> 「長崎平和記念式典」への派遣と平和学習の充実 <input type="checkbox"/> 姉妹都市との交流	
成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就学指導では、校内の就学指導関係事務が進む前に町就学指導担当者会を開催し早期相談に努めた。また、普通学級に在籍しているADHDをはじめ特別な支援を必要とする児童の把握に努め、平成30年度からの「通級指導教室」の開設の準備を計画的に進めた。 ○ 特別支援教育支援員の研修会を、計画よりも1回多い4回開くとともに、支援員個々の「支援スキル」の向上のために、特別に専門講師を招聘して実際の支援の授業場面での指導・援助等をいただく機会を設定した。 ○ 放射線教育や防災教育等、身の健康・安全に関しては、ややマンネリ化が見受けられる。また、外部講師によるふるさと学習、平和教育は順調に展開できた。 	
改善・充実策	<ul style="list-style-type: none"> ○ ADHD通級指導教室については、県内でも数少ない巡回型であり、施設設備をはじめ指導内容・方法を含めて改善し続けてその効果が上がるようになたい。 ○ 特別支援教育支援員の研修の仕方を工夫し、一人ひとりの子どものニーズに合う支援方法を身につけさせるべく、専門家による個別研修を多く設定したい。 ○ 平和教育は、長崎と広島交互に視察させ、研修成果の発表会を活性化したい。 ○ 2年後の小学校外国語(英語)教科化に向けて指導体制を整備すると共に、国際理解教育及び外国語活動を工夫し、児童が必要感を持って取り組むようにする。 	
第三者評価委員評価	A	A 大変よい B 良い C やや悪い D 悪い
教育委員評価	A	
担当者自己評価	B	

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価表
重点施策…教育内容の充実、教育施設の充実、学校教育にかかる経済的支援
5 教育施設の整備

学校教育課

重点施設	(1) 良好的な教育施設の整備			
重点項目	① 教育施設の充実を図る			
具体的な活動	<input type="checkbox"/> 学校教育施設の維持管理と今後の整備のあり方についての検討 <input type="checkbox"/> 廃止した学校プールの取扱いの検討			
成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各校の屋内プールの使用について、水泳学習調整会で審議してスムーズに行うことができた。しかし、曜日変更等による個別の変更や対応は難しかった。 ○ 各校の施設設備について、目視点検はしてきたが専門家によるメンテナンスや点検を行うことはできなかった。また、パソコンや電子黒板等の機器の老朽化に伴う修理や更新は、年次計画で継続的に行う。 ○ 廃止したプールの跡地の活用方法については、継続協議である。 			
改善・充実策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水泳学習調整会をプール開始より早めに開催し、各校の希望を受け綿密な計画により円滑に行いたい。特に、前日などの急な変更がないようにして、一般の利用者の利便性を向上させたい。 ○ 教育機器をはじめ老朽化に対応した施設設備の点検・修理・更新を、計画的に行いたい。 			
第三者評価委員評価	B	A 大変よい B 良い C やや悪い D 悪い		
教育委員評価	B			
担当者自己評価	B			

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価表
重点施策…教育内容の充実、教育施設の充実、学校教育にかかる経済的支援
6 学校教育にかかる経済的支援

学校教育課

重点施設	(1) 子育て世帯への学校教育にかかる経済的支援の強化			
重点項目	① 子育て世帯に対応した経済的支援事業に努める			
具体的な活動	<input type="checkbox"/> 奨学資金制度の拡充の検討 <input type="checkbox"/> 児童生徒への就学援助支給による経済的負担の軽減 <input type="checkbox"/> 入学児童生徒への入学祝い品(制服)支援事業の実施			
成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奨学金制度の拡充を検討して行った。 ○ 就学援助支給により、保護者の経済的負担の軽減を図った。 ○ 新入学生への祝い品として制服支給は、業者の協力のもと円滑に行うことができた。 			
改善・充実策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奨学金制度の拡充を行ったが、当初考えていたより応募者が少なかったので、更に広報に努めたい。 ○ 学校から給食費補助の要望があり、前向きに検討する。 			
第三者評価委員評価	B	A 大変よい B 良い C やや悪い D 悪い		
教育委員評価	B			
担当者自己評価	A			

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、他文化交流の促進

青少年健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

生涯学習課

重 点 施 策	1 生涯学習の推進 (1) 生涯学習推進体制の充実を図る (2) いつでも、どこでも、誰でもが学び合える生涯学習社会の実現のため、情報の提供と町民のニーズに的確に対応する事業を行う。	
	○ 「生涯学習推進基本計画」(第2次)に基づく実施体制の確立 ○ I C T講習会、持ち込み講座の開催支援、女性講座の開催支援	
具 体 的 な 活 動	○ 「生涯学習推進基本計画」(第2次)に基づく実施体制の確立 ・中央公民館長を専任配置することにより、社会教育・社会体育事業の振興を図った。また、地区公民館活動の活性化に向け、新たな仕組みづくりの検討協議を行った。 ○ I C T講習会、持ち込み講座の開催支援、女性講座の開催支援 ・パソコン教室(初心者向け・4回コース)やスマートフォン講座(5月・9月)を開催した。 ・男女共同参画推進事業との共催で、講演会「暮らしをより楽しくするためのワークライフバランス戦略」を開催した。 ・成人講座「女子力アップ講座」として、はじめてのゴルフ教室を6回コースで開催した。	
成 果 ・ 評 価	○ 中央公民館・地区公民館活動の充実・展開に向けて、新たな仕組みづくりの方向性を見出すことができた。 ○ I C T講習会、持ち込み講座の開催支援、女性講座の開催支援 ・パソコン・スマートフォン講座は、それぞれのツールを利用することで生活を豊かにすごすための教室となった。 ・「女子力アップ講座」は、新たな参加者にも興味関心を示してもらうことができた。	
改 善 ・ 充 実 策	○ 「生涯学習推進基本計画」に基づき、推進体制の充実及び魅力ある各種事業の展開を図る。 ○ より多くの町民が生涯学習の機会を得られるよう、ニーズの把握に努め、豊かな学びの機会を提供できるよう、企業や大学等との連携に努め、各種事業の展開を目指す。	
第三者評価委員評価	B	A 大変良い B 良い C やや悪い D 悪い
教 育 委 員 評 価	B	
社会教育委員評価	B	
担 当 者 自 己 評 価	B	

平成29年度「教育員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、他文化交流の促進

青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

生涯学習課

重 点 施 策	2 多様な学習機会の提供と内容の充実
	(1) 乳幼児期から高齢期までのライフステージに応じて、求められる知識や技能を適切に提供することができるよう内容の充実を図り、創造的で活力ある活動の展開に努める。
重 点 項 目	<input type="radio"/> 姉妹都市交流事業 <input type="radio"/> こおりキッズスクール <input type="radio"/> こおり友遊くらぶ <input type="radio"/> かやのき学園
具 体 的 な 活 動	<input type="radio"/> 姉妹都市交流事業 ・姉妹都市エリザベスタウン市へ、9月16日から24日までの9日間、団長・引率者3名、中学生10名を派遣した。 <input type="radio"/> こおりキッズスクール ・年6回開催 のべ92名参加（カヌー体験、キャンプ、など） <input type="radio"/> こおり友遊くらぶ ・年8回開催 受講生26名（のべ102名参加） <input type="radio"/> かやのき学園 ・全体学習7回 地区館学習各3回 受講生81名
成 果・評 価	<input type="radio"/> 姉妹都市交流事業 ・体験入学やホームステイを通して、異文化に実際触れることで、国際感覚や見聞をおおいに広げた。 <input type="radio"/> こおりキッズスクール ・日常体験できない自然の素晴らしさ物作り、伝統文化などの体験ができた。 <input type="radio"/> こおり友遊くらぶ ・受講生の希望により、学習内容を吟味し仲間と共に学習し、いきいきと楽しく生活するための支援としての役割を担っている。 <input type="radio"/> かやのき学園 ・年間を通した活動により、生きがいづくりの場となっている。
改 善・充 実 策	<input type="radio"/> 姉妹都市交流事業 ・中学生に限らず一般や各種団体等との交流を図る上でも、国際交流協会などの組織作りについて考える必要がある。 <input type="radio"/> こおりキッズスクール ・学校や家庭で体験できないことが学習できる機会であり、地域の仲間との交流も図ることのできる有意義な活動であり継続する必要がある。 <input type="radio"/> こおり友遊くらぶ <input type="radio"/> かやのき学園 ・生きがいづくりの上で、重要な価値ある事業である。より充実した講座にするためには男性の参加を促す必要がある。
第三者評価委員評価	B
教 育 委 員 評 価	B
社会教育委員評価	B
担 当 者 自 己 評 価	B
A大変良い B良い Cやや悪い D悪い	

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、他文化交流の促進

青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

生涯学習課

重点施策	3 社会教育団体の活動奨励
	(1) 家庭、学校、地域社会及び社会教育団体との連携を図るとともに、自主的学習を推進するサークル等の活動を奨励・支援する。
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施 ○ 親子教室の開催
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・少年の主張福島県大会の作文募集 酒井中学校から、総数3点の応募。 ・青少年育成町民会議大会及び記念講演 7月12日(水) 参加者183名 「早寝・早起き・朝ごはんと学力向上」百ます計算の 陰山英男 氏 ・各小学校意見発表会 各小学校で実施し、10名の児童が発表を行った。 ・青少年育成剣道大会(国見町と合同開催) 8月27日(日) 参加者27名(うち町内15名) 「ふるさと福島への思いと願い」俳優・タレント なすび 氏 ○ 親子教室・子ども会やPTA等が行う親子活動への助成を行った。
成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の豊かな心と生きる力を養い、地域社会が一体となって非行防止などの健全育成に取り組んだ。 ・「青少年育成町民会議だより」を2回発行し、町民会議大会の記念講演の要点と参加者の感想を広く町民へ周知した。 ・第39回「少年の主張」福島県大会で、1名が優良賞を受賞した。 ○ 親子教室 <ul style="list-style-type: none"> ・子供会を中心に8団体の利用あり、キンボールや親子体操教室の開催支援をした
改善・充実策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑折町青少年育成町民会議事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成のために、国・県の施策と呼応しながら事業を充実する必要がある。 ○ 親子教室 <ul style="list-style-type: none"> ・親子の絆、保護者間のつながりが見て取れ、それを助成する価値がある。
第三者評価委員評価	B
教育委員評価	B
社会教育委員評価	B
担当者自己評価	B
A 大変良い B 良い C やや悪い D 悪い	

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、他文化交流の促進

青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

生涯学習課

重 点 施 策	4 青少年体験活動の積極的推進
	(1)地域の教育力の活用を図り、青少年の体験活動・ボランティア活動を積極的に推進する。 (2)町の将来を担う青少年に、健全成長と郷土愛を育むために通過儀礼としての事業を行う。
重 点 項 目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業の実施 ○ 学校支援地域本部事業の実施 ○ こおり地域クラブの実施 ○ 中学2年生を対象に、将来への志を高める「立志式」 ○ 成人を祝い、大人としての自覚を促す「成人式」
具 体 的 な 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業、学校支援地域本部事業、こおり地域クラブの実施 ・コーディネータ1名を配置し、学校等の要請に応えている。「地域人材支援バンク」のボランティアの協力により、学校支援及び地域クラブの活動を推進した。 ○ 「立志式」 ○ 「成人式」 ・桑折町立志式及び記念講演 2月9日(金) 醸芳中学校 2年生 109名および保護者 ・桑折町成人式 1月7日(日) 新成人 148名
成 果 ・ 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業、学校支援地域本部事業、こおり地域クラブの実施 ・学校等からの各種分野の要望に基づき、的確な人材を派遣することで、豊かな学びが醸成されている。また、指導者も地域や社会への還元により、新たな生きがいづくりにつながっている。 ・ボランティア指導者の熱心な指導により、小学生が土曜日に生き生きと活動し、有意義な時間を過ごしている。今年度は、文化・芸術・スポーツなどの14クラブに173人の児童が参加しての活動となった。 ○ 「立志式」 ○ 「成人式」 ・中学2年生の立志者及び新成人をそれぞれ激励した。
改 善 ・ 充 実 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験活動・ボランティア活動支援センター事業、学校支援地域本部事業、こおり地域クラブの実施 ・有効な事業として、各方面から高い評価を受けている。コーディネーターを介し、学校及び地域ボランティアとの連携強化を図る。 ・「地域人材支援バンク」の新版に更新して、より指導者の発掘を図る必要がある。 ○ 「立志式」 ○ 「成人式」 ・それぞれの節目で、自覚を新たにできるような式典等となる内容にしたい。
第三者評価委員評価	B
教 育 委 員 評 価	B
社会教育委員評価	B
担当者自己評価	A
	A 大変良い B 良い C やや悪い D 悪い

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の充実、公民館施設等の充実、他文化交流の促進

青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

生涯学習課

重点施策	5 心を豊かにする読書活動の充実
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 遊学館「よも～よ」の読書環境・学習環境の充実を図り、親しまれる運営に努める。 (2) 町民への図書の紹介や幼・小・中学校との連携を図り、図書の有効活用・読書活動の充実に努める。
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑折町読書活動推進計画に基づく学校図書室との連携、図書ネットワークの推進 ○ ブックスタート事業の実施 ○ ファミリー文庫おはなしの会の実施
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校図書室との連携、図書ネットワークの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・睦合小・半田酸芳小・各幼稚園・預かり保育に計1,000冊の貸出しを行った。 ○ ブックスタート事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・7ヶ月児健診時に、親子のふれあいを深める読み聞かせの奨励活動を実施し、絵本の進呈及び「よも～よ」の利用案内を行った。 ○ ファミリー文庫おはなしの会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー文庫によるおはなしの会を、子どもクラブ等で年2回、合計6回実施した。また、毎月1回、中央公民館おはなしの会として、屋内遊び場を利用の幼児を対象に「よも～よ」司書によるおはなし会を実施した。
成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校図書室との連携、図書ネットワークの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・おはなしの会、ブックスタート事業とともに、工夫をかさねながら開催することができた。 ○ 図書室運営の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・遊学館「よも～よ」では、図書の貸出し、学習スペースの提供を行い、貸出冊数は17,000冊を超えた。
改善・充実策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書室運営の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館おはなしの会は、ボランティアの協力を得ながら継続し、絵本の出張貸出を行い、家庭での読み聞かせを推進する。また、新刊図書の充実にも努める。 ○ 小・中学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校及び学校司書と連携しながら、図書ネットワークの活用を推進し、読書習慣の定着に努める。
第三者評価委員評価	B
教育委員評価	B
社会教育委員評価	B
担当者自己評価	B
	A 大変良い B 良い C やや悪い D 悪い

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の充実、公民館施設等の充実、他文化交流の促進

・青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

生涯学習課

重 点 施 策	6 芸術・文化団体活動の奨励・支援
	(1) 町民の自主的な芸術文化活動を奨励・支援とともに、活動成果発表や鑑賞機会としての総合文化祭の充実に努める。
重 点 項 目	<input type="radio"/> 文化講演会の開催 <input type="radio"/> 高齢者作品展の実施 <input type="radio"/> 文化団体連絡協議会活動支援
具体的な活動	<input type="radio"/> 文化講演会の開催 ・町民の豊かな感性を創出するため、ゴルゴ松本氏を講師に迎え、11月12日(日)イコーゼ！において開催した。 <input type="radio"/> 高齢者作品展の実施、文化団体連絡協議会活動支援 ・第42回町総合文化祭開催のため、文化祭実行委員会の支援補助をするとともに、児童・一般作品展や老人クラブ連合会の協力で高齢者作品展を同時開催した。また、文化団体連絡協議会への補助金交付、事務運営補助を行い自主的活動をサポートした。
成 果・評 価	<input type="radio"/> 文化講演会の開催 ・若者、小中学生はじめ、多くの地域住民が来場し、各方面で高い評価を受けている、ゴルゴ松本氏の軽快な講演内容に引き込まれていた。 講師 ゴルゴ松本氏 演題「命の授業」 来場者300人 <input type="radio"/> 高齢者作品展の実施 ・多くの高齢者から167作品の出展があった。 <input type="radio"/> 文化団体連絡協議会活動支援 ・加盟団体は51団体、1,106人の会員となっており、総合文化祭は町最大の文化イベントであるため、補助金交付、事業支援は引き続き行う。 ・文化祭は、「総合展示会」「芸能・ダンス発表会」「ダンス交流会」を町民体育館及びイコーゼ！で開催し、1,525名の来場があった。また、新たに芸能・ダンス発表会に体育協会から2団体の参加があった。
改善・充実策	<input type="radio"/> 文化講演会・総合文化祭・高齢者作品展等の開催実施 ・町民が地元で芸術・文化を気軽に楽しめる機会として、また児童生徒の豊かな感性を育む場として、今後もより充実した開催となるよう検討を重ねる。 ・高齢者が日ごろ創作した作品の発表の機会として、今後も作品展を継続する。また、総合文化祭についても創意工夫を重ね、子どもたちから高齢者まで幅広い年代がつどえる機会とする。
第三者評価委員評価	B
教 育 委 員 評 価	B
社会教育委員評価	B
担当者自己評価	B
	A大変良い B良い Cやや悪い D悪い

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…生涯学習活動の推進、芸術・文化の振興、公民館施設等の充実、他文化交流の促進

青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

I 生きがいと自己実現をめざす生涯学習の推進

生涯学習課

重 点 施 策	7 施設の効果的・効率的な管理運営 (1) 各施設の効果的活用と安全維持管理に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各施設の安全点検・修理と効果的活用
重 点 項 目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各施設の安全点検・修理と効果的活用 <ul style="list-style-type: none"> ・日常からの安全点検を行うことにより、良好な利用環境の維持に努め、また、光熱水費などの施設管理費の節約にも併せて努めた。 ・施設の管理清掃業務を委託することにより、適正な施設管理に努めた。
具 体 的 な 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑折公民館 …トイレ洋式化改修工事設計業務、大ホール音響システム更新 ○ 睦合公民館 …駐車場区画線設置、点字ブロック補修 ○ 伊達崎公民館…玄関マット取替、粉末消火器更新 ○ 半田公民館 …外灯ポール・ダクトカバー修繕 ○ 遊学館「よも～よ」…蔵書点検、利用者カード作成
成 果 ・ 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各施設の安全点検・修理と効果的活用 <ul style="list-style-type: none"> ・委託業者による真摯な業務の遂行で、適切な点検・管理がなされている。 ・必要箇所の修繕を行い、利用環境の向上に努めた。
改善・充実策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各施設の安全点検・修理と効果的活用 <ul style="list-style-type: none"> ・各施設については、日常的な点検を行うことにより、適正管理に努め維持補修を計画的に進める必要がある。 ・利用環境の維持向上のため、利用者からの声に耳を傾けながら施設の管理運営に努める。
第三者評価委員評価	B
教 育 委 員 評 価	B
社会教育委員評価	B
担当者自己評価	B
A 大変良い B 良い C やや悪い D 悪い	

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…健康・体力づくりをめざす生涯スポーツの推進、体育施設等の充実

青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

II 健康づくりをめざす社会体育・生涯スポーツの振興

生涯学習課

重 点 施 策	1 社会体育事業の推進 (1) 身近な体育・スポーツ活動を通して、生涯にわたって健康の保持増進と生きがいづくりに努める。 (2) 総合型地域スポーツクラブ「マルベリーこおり」や体育協会に加盟する団体の自 主活動を奨励し、各種事業での連携を進め、生涯スポーツの振興に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種スポーツ大会の開催や健康関係の講演会等の実施 ○ 町民体育祭及び各種スポーツ大会の開催と加盟団体主催大会の支援 ○ 「マルベリーこおり」「町体育協会」との連携の推進
具 体 的 な 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育祭・各種スポーツ大会の開催や健康関係の講演会等の実施 ・スポーツ推進委員の協力のもと、体育協会と連携を計り、町民体育祭及び各種ス ポーツ大会、スポーツテストを開催した。また、「スポ少交流会」(体幹トレーニング 教室)、「スポーツ体験教室」(タグラグビー教室)を開催した。 ○ 「マルベリーこおり」「町体育協会」との連携の推進 ・団体への補助金交付、活動支援及び共催事業を行った。
成 果 ・ 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育祭・各種スポーツ大会の開催や健康関係の講演会等の実施 ・第3回町民体育祭は、10種目700名を超える参加者があり、開催時期につい ても定着しつつある。また、「スポーツテスト」は、幅広い年代からの参加があり、 継続している参加者も多く、自分の体力年齢を確認していた。「スポ少交流会」は 県体協事業を活用して開催し、多くの子どもたち及び指導者・保護者にとって有 益な教室となった。 ○ 「マルベリーこおり」「町体育協会」との連携の推進 ・「マルベリーこおり」は、totoから町に支援助成を受けており、さらに町独自にク ラブ・協会の運営を支援している。
改 善 ・ 充 実 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育祭・各種スポーツ大会の開催や健康関係の講演会等の実施 ・町民体育祭等を継続して開催することにより、町民の健康意識、スポーツ意識の 向上を図る。 ・健康志向の高まりのなかで、「健康」に関連する事業は、庁内関係課及び公民館事 業と連携または分担して進める必要がある。 ○ 「マルベリーこおり」「町体育協会」との連携の推進 ・補助金は当面継続する必要があり、更に、両団体の連携も模索する必要がある。
第三者評価委員評価	B
教 育 委 員 評 価	B
社会教育委員評価	B
担当者自己評価	B
	A 大変良い B 良い C やや悪い D 悪い

平成29年度「教育委員会重点施策」点検・評価

重点施策…健康・体力づくりをめざす生涯スポーツの推進、体育施設等の充実

青少年の健全育成、屋内遊び場を活用した子育て支援の充実

II 健康づくりをめざす社会体育・生涯スポーツの振興

生涯学習課

重点施策	2 社会体育施設の効率的・効果的な管理運営 (1)「イコーゼ！」(屋内温水プール・多目的スタジオ)の安定的かつ効率的な利活用に努める。 (2)「町民体育館」「桑折テニスコート」及び周辺施設の整備・安全維持管理に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校の水泳授業並びに桑折町小学校水泳大会の開催 ○ 各種水泳教室の実施 ○ 夏季休業中におけるPTAと連携した屋内プール開放の実施 ○ 屋内遊び場の活用コンテンツの提供 ○ 施設利用者用駐車場の拡充整備 ○ 桑折テニスコートの人工芝張替補修
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校の水泳授業並びに桑折町小学校水泳大会、各種水泳教室の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・大きな混乱もなく水泳授業、夏休みプール開放、水泳大会を実施した。幼児から成人まで、幅広い年代の方が水泳教室に参加した。 ○ 屋内遊び場の活用コンテンツの提供 <ul style="list-style-type: none"> ・遊び場を活用したイベント・ワークショップを季節ごとに開催した。 ○ 施設利用者用駐車場の拡充整備・桑折テニスコートの人工芝張替補修 <ul style="list-style-type: none"> ・旧町民プール解体工事後に、敷砂利を施し仮設駐車場としている。 ・テニスコート人工芝張替補修工事を完了し、4月からのリニューアルオープンに向け準備を進めている。
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水泳授業、小学校水泳大会の開催 ○ 各種水泳教室の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学校授業等と一般開放が混在する中でのプール運営となったが、大きな混乱もなく事故なく運営できた。また、トップアスリートによる子どもの水泳教室も多くの参加があり、子どもたちにとって貴重な時間となった。 ○ 屋内遊び場の活用コンテンツの提供 <ul style="list-style-type: none"> ・へんしんバイク、プラネタリウム、人形劇、運動あそび、読み聞かせ等を開催し、常設遊具以外のイベントを実施することで利用促進につながった。 ○ 施設利用者用駐車場の拡充整備・桑折テニスコートの人工芝張替補修 <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場不足に一定の目途がついた。totoからの助成を受け人工芝を更新でき、線量低下も実現した。
成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会体育施設の運営管理 <ul style="list-style-type: none"> ・「イコーゼ！」に特化した部分が大きくなっているが、社会体育施設群の拡充整備に向けた検討が必要になる。 ・既存体育施設についても、適正管理に努め維持補修を計画的に進める必要がある。
改善・充実策	
第三者評価委員評価	B
教育委員評価	B
社会教育委員評価	B
担当者自己評価	B
	A大変良い B良い Cやや悪い D悪い

平成29年度重点施策点検・評価

桑折町教育委員会

III 文化財の保護活用

重 点 施 策	1 「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づく保護・調査・活用の推進
	<p>1 「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づく保護・調査・活用の推進</p> <p>(1) 「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づき、文化財や歴史的遺産の保存と活用を図るとともに、歴史的風致の概念に合致しない歴史的文化遺産、民俗芸能について同計画と連携しながら調査保存・継承に取り組む。</p> <p>(2) 文化財や補修の必要な文化財の復旧に努めるとともに、文化財の調査成果の公表と未指定文化財の指定と保存を図り、文化財保護精神の継承と郷土の歴史的文化継承の普及啓発に努める。</p>
重 点 項 目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 補修が必要な文化財の復旧・修理 ○ 伊達郡役所をはじめとする復旧した文化財の公開と更なる活用 ○ 郷土の歴史的遺産の調査・保存・整備
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観音寺観音堂を町指定有形文化財に指定した。 ○ 歴史案内人育成事業を実施した。
成 果・評 価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観音寺観音堂を建造物調査をした上で、文化財指定を行うことができた。 ○ 旧伊達郡役所において、町商工観光推進室、町振興公社と連携して「献上桃の郷魅力発信プロジェクト」を実施し、旧伊達郡役所の活用、史跡桑折西山城跡や桑折宿の古い町並み、種徳美術館を連動させた取り組みを実施することができ、町内の歴史遺産の活用を行うことができた。 ○ 歴史案内人を育成することができ、活動の準備ができた。
改 善・充 実 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑折宿の景観に配慮した改善に対する助成事業に向けた事業や、案内板等の整備のための調査と準備が必要である。 ○ 歴史案内人育成事業の立ち上げを行い、町内外の方々に歴史的遺産の魅力発信を行う必要がある。
第三者評価委員評価	A
教育委員評価	A
文化財保護審議委員評価	A
担当者自己評価	A
	<p>A 大変良い B 良い C やや悪い D 悪い</p>

平成29年度重点施策点検・評価

桑折町教育委員会

III 文化財の保護活用

重 点 施 策	2 史跡桑折西山城跡整備事業の推進 (1) 「桑折西山城整備基本計画」「桑折町歴史的風致維持向上計画」に基づき積極的に保存整備事業に取り組むとともに、適切な管理保存と公開を行う。	
重 点 項 目	○ 史跡桑折西山城跡保存整備事業の推進	
具 体 的 な 活 動	○ 史跡桑折西山城跡整備事業2年目の事業として、本丸の保護盛土工事を行った。本丸周辺の倒木・落枝の危険のある樹木や、遺構保護や景観上、支障となる樹木を伐採した。	
成 果 ・ 評 価	○ 盛土が完成したことにより、本丸の遺構整備の準備が整えることができた。 ○ 本丸周辺の危険樹を除去して安全を確保することができ、史跡内外からの景観を整えることができた。	
改 善 ・ 充 実 策	○ 全体の事業規模の見直しを図りながら、史跡桑折西山城跡整備指導委員会や文化庁、県文化財課の指導を仰ぎ、整備内容を適宜検討し、整備事業を進めていく必要がある。	
第三者評価委員評価	B	A 大変良い B 良い C やや悪い D 悪い
教育委員評価	B	
文化財保護審議委員評価	B	
担当者自己評価	B	

平成29年度重点施策点検・評価

桑折町教育委員会

III 文化財の保護活用

重 点 施 策	3 旧伊達郡役所・種徳美術館の適切な管理と活用の推進 (1) 旧伊達郡役所の適切な保存管理と建物の公開・活用に努める。 (2) 種徳美術館の適切な管理と所蔵品の公開に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旧伊達郡役所の公開と企画展の充実 ○ 種徳美術館所蔵美術品の公開・活用
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 種徳美術館企画展「西根堰の歴史と文化」を開催した。 ○ 種徳美術館企画「美術館に年賀状を送ろう」実施。 ○ 活用事業「桑折町女声コーラス創立40周年記念演奏会」「サンフォトごおり写真展」「献上桃の郷魅力発信プロジェクト」 ○ 文化財保護法改正方針に合わせ、「旧伊達郡役所活用に関する申し合わせ」の改定を行い、一層の保存と活用を図れるようにした。
成 果・評 価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 旧伊達郡役所活用事業が充実し、多くの方々に来場をしていただくことができた。 ○ 文化財保存会・伊達西根堰土地改良区と連携した企画展を実施し、西根堰に親しんでもらうことができた。
改善・充 実 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化財保護法改正の動向を見極めながら、適切な文化財建造物の活用を行う必要がある。 ○ 種徳美術館の収蔵品、寄託品を公開するとともに、町内外の文化財を借用するなどして、展示の充実を図る必要がある。
第三者評価委員評価	A
教育委員評価	A
文化財保護審議委員評価	A
担当者自己評価	A
A 大変良い B 良い C やや悪い D 悪い	

2 教育委員会の校長に委任する事務の管理 及び執行状況

【校長学校経営評価】

平成30年2月9日

学校名 桑折町立釀芳小学校
 職氏名 校長 木村政文

平成29年度学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

- (1) 高い志を持って、自分の未来を切り拓いていく人づくりを推進する。
 - ① 教育目標、学校の教育目標を具現するための本校の基本理念（愛と英知と活力）を軸とした教育活動を行う。
 - ② 「桑折町教育委員会の重点」に基づいて、「桑折町の15歳のめざす姿」の実現に向け、小学校の時期に必要な教育活動を行う。
- (2) 釀芳小学校の名にふさわしい香り高い校風の樹立と本県・桑折町の中核校としての責務を果たす教育活動を推進する。
 - ① カリキュラムの充実（完全実施）とワンランク上の教育活動を行う。
 - ② 誇り、礼節を重視した教育活動を行う。
- (3) 「地域が学校を応援、学校が地域に貢献」を推進する。
 - ① 地域社会と学校の協働を模索する。
 - ② 相互信頼に基づく保護者・地域との連携を行う。
- (4) 教育公務員としての服務の厳正、コスト意識を持った教育活動を推進する。
 - ① 不祥事を自分のこととして危機感を持った不祥事防止を行う。
 - ② コスト意識を持った教育活動を行う。

2 学校経営総合評価

- (1) 基本理念に基づいた教育活動行うことができた。
- (2) 礼節、挨拶等は身に付きつつあるが、保護者評価によると家庭での実践がやや不十分なので、さらなる家庭との連係が必要である。
- (3) 学びのスタンダードパイロット校として成果（児童が学び合う姿、活用する力がやや向上等）が見られつつあるが、学習への構え、主体性がやや不十分である。
- (4) 学年・学級経営を基盤とした生徒指導が機能し、問題行動等の早期発見・対応ができた。さらに、子どものニーズ（障がいのある児童等）に応じた指導を進める必要がある。
- (5) 学年の実態に応じた体験活動（地域素材の開発、人材の活用等）が図られるとともに、情報発信（HP、職員室だより、学年だより等）により、学校の教育活動への関心が高まりつつあり信赖感へつながっている。
- (6) 服務倫理ニュースによる啓発、服務倫理委員会における具体的な場面を想定した指導等により、現在懲戒にかかる不祥事は発生していない。また、事務職員から月毎の予算執行状況を教職員に配付し、コスト意識が高まりつつある。今後、多忙化の解消に向けた意識の改革が必要である。

3 学校経営課題の実施状況

- (1) カリキュラムの充実（完全実施）とワンランク上の教育活動

項目	主な実践事項	評価 達成状況
重点事項	カリキュラムを（教育課程）を軸とした教育活動の充実・改善	B
実践事項	〈英知〉確かな学力の確立、積極的な読書活動	B
	〈愛〉道徳的実践力の向上、落ち着いた生活態度の形成、挨拶の励行 無言清掃・無言移動の徹底	B
	〈活力〉体力の向上、健康教育の推進、安全教育の充実、はやぶさ活動の実施	B
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科、算数科では、領域や内容に応じた正答率等のバラツキが見られる。 (学習状況調査) ・ スタンダード&チャレンジの実践 算数・数学オリンピック（6年生全員、他の学年50%参加） ・ 主体的な学習が身に付いていない児童が見られる。（教師、保護者評価） 授業スタンダードと家庭学習スタンダードの一体的な活用 ・ 家庭での読書の習慣が身に付いていない。（保護者評価） ・ 高学年になるにつれ読書への関心が薄い。（児童評価） ビブリオバトルへの取組 ・ 家庭や地域での挨拶の習慣が身に付いていない。（教師、保護者評価） 17字のふれあい参加 ・ 高学年になるにつれて持久力が下がりつつある。（運動能力調査） ふくしま体力向上総合プロジェクトへの参加 	

(2) 地域が学校を応援、学校が地域に貢献

項目	主な実践事項	評価 達成状況
重点事項	学校教育を学校内に閉じずに、学校の目標を社会と共有	B
実践事項	地域の特色を生かした教育活動の推進	B
	学校評価の推進	B
	H P・マスコミ、職員室だより、学年だよりによる積極的な情報発信	B
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域素材のさらなる教材化とともに、地域林材の発掘・活用がやや不十分である。 シビックプライドの具現 ・ 学校関係者評価と保護者への説明責任が不十分であった。 新学習指導要領への対応、教育課程（特に学校行事）等の説明 ・ タイムリーな情報発信がやや不十分であった。 学校・学年の取組の発信から保護者の啓発 ・ H P、職員室だより、学年だよりの充実 	

(3) 教育公務員としての服務厳正・コスト意識

項目	主な実践事項	評価 達成状況
重点事項	感度を高め、共有化を図る危機管理意識の徹底	B
実践事項	服務倫理委員会の活性化	B
	予算執行状況の周知	B
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服務倫理委員会の時間の確保、外部講師の招聘が不十分であった。 S N S 等の外部講師招聘 ・ 見通しを持った予算執行伺い（学級費等）の提出に個人差が見られる。 月毎の予算執行状況の整理と教職員への周知の継続 	

評価は、A, B, C, Dの4段階評価とする。

A (4) : 十分に目標を達成している。

B (3) : おおむね、目標を達成している。

C (2) : やや目標の達成には至っていない。

D (1) : 目標を達成していない。

【校長学校経営評価】

平成30年2月9日

学校名 桑折町立桑折町立睦合小学校
職氏名 校長 大槻 誠

平成29年度学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

- (1) 安全・安心、信頼される学校づくりの推進
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着とともに、その活用を図る学習活動の推進
- (3) 共生の心を育み「いじめのない学校」をめざす
- (4) 健やかな心身を育てる健康教育の推進
- (5) 心を育てる道徳教育と人間尊重の精神に立つ人権教育の推進
- (6) 読書指導の充実
- (7) 特別支援教育の充実
- (8) 指導力を培う校内研究・研修充実

2 学校経営総合評価

- (1) 「向上心を持ち、実践力のある児童の育成」の教育目標と児童像の具現に向け、教職員が一丸となり教育活動を進めてきた。方針第一に「安全・安心、そして信頼される学校であること」を掲げ、家庭や地域の信頼なくして豊かな教育活動はできないこと、さらに信頼を損なわないよう最善の努力をすることを全職員で常に確認してきた。学校評価で高い評価を得たことから信頼関係の中で教育活動ができたといえる。
- (2) 町「15歳のめざす姿」との連携を図り、学び合う姿を求める授業改善に取り組んだ。授業では児童の「学び合い」を大切にし、友だちの考えから自己の考えを深めたり、修正したりする場を積極的に設定した。また基礎的基本的内容の理解と定着を目指し、個別指導やくり返し学習を徹底し、児童は自信をつけてきている。児童アンケートでも「分かるように教えてくれる。」「友達の考えで自分も分かった。」と多くの児童が答えていた。
- (3) 「いじめのない学校」をめざし、調査や日常観察を重視し、個に応じたきめ細やかな指導を徹底してきた。特に年二回実施するQ-Uテストで適切な関わりを工夫することで、どの児童も好ましい変容を見せている。些細なことでも気になることがあれば、チームで情報交換して対応する「全校担任」の指導体制をとることができた。このような迅速な早期対応がいじめ、不登校の未然防止につながっている。
- (4) 体力向上においては、主に「1校1実践」を進めてきた。体育科や学校行事との関連から、課題をもって実践し、体力を向上させてきた。課題は「投の力」であり、継続的な取組を進めることが肝要である。

3 学校経営課題の実施状況

「進んで学ぶ子ども」の育成（学力の向上）

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	① 学び合う授業と「わかった・できた」と実感できる授業実践 ② 家庭学習の習慣化 ③ 読書活動の充実 ④ 自分の思いや願いを表現する力の向上	A A A B
実践事項	① ・学び方を身に付け、活用・表現力を高める授業づくり。・言語活動の充実。 ・授業ノートづくりと活用。 ② ・授業との関連を図った内容の工夫。 ・自主学習ノートの工夫。 ③ ・学年必読書の設定と読書奨励。/読書習慣の育成（朝読・家読） ④ ・「発表朝の会」等表現の機会や場の設定。	A A A B
課題等	・秋田に学ぶ学力向上実践、読み書き計算等に前向きに取り組むなど、町方針を尊重して積極的に取り組む良い組織である。 ・学年ごとに必読書を定めた読書は、冊数増につながっている。 ・児童自身が学びや努力の姿が分かるように可視化を図りたい。	

(2) 「助け合いのできる子どもの育成」(豊かな人間関係づくり)

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	① 学級経営の充実。 ② 自他の命を大切にする心を育む。 ③ 体験活動・ボランティア活動充実。 ④ 縦割活動の充実	A B B A
実践事項	① ・支持的風土のある学級づくり。・話し合い活動の充実。 ② ・道徳の多様な展開の工夫。・人間尊重とよさを引き出す。 ・自己肯定感・存在感の醸成。 ③ 様々な直接体験と「ふりかえり」の実施。 ④ 異年齢集団活動で思いやりの心を醸成。	A B B A
課題等	・ 支持的風土のある学級が児童の生活に影響を与えることから、諸調査結果を踏まえ、個々の支援を充実させた。不登校やいじめ等のない、温かい人間関係の中で教育活動を進めることができた。 ・ 直接体験・感動体験は多様な考え方へ影響を与える。反省に基づき、それを意識した教育課程を編成しなければならない。	

(3) 「元気でねばり強い子どもの育成」(健やかな心と体の育成)

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	① 基本的生活習慣の確立 ② 体力の向上 ③ 食育の充実 ④ 安全な生活態度や習慣の形成	A A B A
実践事項	① ・心身の健康を保つ能力の育成（早寝早起き朝ごはん） ② ・「体力向上1校1実践」・授業充実（運動身体プログラムの実践） ③ ・食育授業と健康管理（健康手帳） ④ ・健康、安全、防災、放射線教育の充実	A A B A
課題等	・ 日常生活や学校評価等から、保護者意識が向上し、生活習慣は改善されつつある。家庭により差があり、継続して啓発していきたい。 ・ 年度末や年度初は体力向上の取組が停滞しがちである。ここに意識を払い継続的に実践できるよう配慮していく。	

(4) 「教職員の管理」(信頼される学校づくり・不祥事防止)

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	① 授業力向上の研修充実・実践 ② 適切な情報発信 ③ 不祥事防止の徹底	A B A
実践事項	① 共通実践の確認と同僚性の発揮 ② ホームページや学校・学年だよりの発行 ③ 服務倫理委員会の機能と服務行動計画の適宜確認	A B A
課題等	・ 職員は研修等に前向きで、町や学校の方針を遵守し実践化を図っている。 児童の実態を的確にとらえ、課題解決を図る研修を充実させたい。 ・ 不祥事防止を呼びかける風通しの良い・働きやすい職場である。これが継続できるよう最大限の努力をしていきたい。	

評価は、A, B, C, D の4段階評価とする

A (4) : 十分に目標を達成している。

B (3) : おおむね、目標を達成している。

C (2) : やや目標の達成には至っていない。

D (1) : 目標を達成していない。

【校長学校経営評価】

平成30年2月9日

学校名 桑折町立半田醸芳小学校

職氏名 校長 宮戸 広子



平成29年度学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

- (1) 「桑折町の15歳のめざす姿」を見すえ、「思いやりのある子」「たくましい子」「考える子」の教育目標の達成に向けて、職員との共通理解や信頼関係を構築し、一丸となって教育活動に取り組める体制をつくると共に、地域に開かれた学校づくりに努め、家庭・地域、関係機関等との連携をさらに強化し、半田醸芳小ならではの特色ある教育活動を展開する。
- (2) 今年度重点目標「笑顔いっぱい（豊かな心）」「元気いっぱい（健やかな体）」「夢いっぱい（確かな学力）」を柱とし、教育活動の質的向上を図り、不登校・いじめのない、安心・安全・美しい環境の学校づくりをめざす。
- (3) 教職員の資質や指導力の向上と地域や保護者に信頼されるような教職員を育成するとともに、教職員一人一人の危機管理意識を高め、事故や不祥事の絶無を期す。

2 学校経営総合評価

- (1) 学校経営・運営ビジョンの具現に向け、毎月の職員会議示達でビジョンの具体的な取組みを明確に示し、教職員一人一人に学校経営参画意識をもたせ、学校課題の解決に向けて取り組んだ。「昨年度よりワン・アクション」を合い言葉に前年度踏襲をやめ、学校、児童、保護者等の実態に応じた教育活動の展開を行ってきた。
地域学習「ふるさと学」を学びの中心にすえ、地域の高い教育力により、半田醸芳小ならではの特色ある教育活動を展開することができた。町無形文化財「半田銀山祇園ばやし」の継承、産が沢のほたる学習、半田銀山を中心に歴史学習など密度の濃い学習を行うことができ、郷土半田を愛する心の育成に努めることができた。
また、幼小中の連携を図りながら「桑折町のめざす15歳の姿」への共通理解を持ち、自立（自律）して生きる児童を育てるに努めてきた。指定を受けた福島県教育委員会の「学びのスタンダード推進事業」の協力校として、町内の幼小中学校、及び家庭・地域と連携を深め、さらには、「桑折町学びのスタンダード」を取り入れた授業を展開してきた。今後も「桑折町の15歳のめざす姿」を保護者と共有する機会を多くし、学校と保護者・地域の両輪で児童を育てる意識をもっと高めていきたい。
- (2) 豊かな心の育成、体力向上、学力向上を「笑顔いっぱい（豊かな心）」「元気いっぱい（健康体力）」「夢いっぱい（確かな学力）」の重点目標に具現化し、児童の目線に立った指導とその成果を捉え、教育課程や諸行事等の反省を生かしながら、生き生きと学校生活を送る児童の育成と教育活動に取り組み、「明日も学校に来たい」「明日も勤務したい」「通わせてよかったです」「おらが半田の学校」と思える学校づくりに取り組んだ。日々、定期の教育相談、QUTESTによる児童の実態の的確な把握と問題の早期発見、早期対応、早期解決、生徒指導協議会での教職員の共通理解を図りながらいじめ、不登校出現ゼロをめざしたが、1名が不登校気味になり、環境をかえて新たな気持ちで登校したいとの願いにより、3学期より他校に転校したが、現在は元気に登校している。町SCにもつなぎ、アドバイスを受けながらよりよい解決に向かうことができた。
- (3) 教職員人事評価制度を活用し、教職員が教育目標の具現化に主体的に参画することにより、責任感や職務への意欲が高め、能力開発に努めた。また、教職員がよりいっそう高い能力を獲得し、高い指導力を身に付けることができるよう、教職員の能力や勤務の状況を把握し、主題研修の現職研修や、定期の研究協議会、研修会等を充実させてきた。指導力の個人差はまだまだ大きいが、高い指導力をもつ教員と同じレベルになるように組織の活性化を図った。
不祥事を自分のことと置き換えてとらえることができるように、ねらいを絞った具体的な実践事例と内容等の研修を担当が中心になって提案し、ボトムアップの服務倫理委員会を実施した。教職員一人一人の倫理観を高め、不祥事ゼロを達成し、半田醸芳小学校には不祥事は無縁の事であることを確認することができた。

3 学校経営課題の実施状況

(1) 教育目標の達成に向けて、職員との共通理解や信頼関係を構築し、一丸となって教育活動に取り組める体制をづくりと半田醸芳小学校ならではの教育活動の展開

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	1 学校教育目標の達成に向けて、職員との共通理解や信頼関係を構築し、一丸となって取り組める体制づくりをする。 2 地域に開かれた学校づくりに努め、家庭・地域、関係機関等との情報の流れをよくし、連携をさらに強化する。 3 「桑折町の15歳のめざす姿」を見すえ、半田ならではの教育活動を推進する。	A
実践事項	○ 学校経営・運営ビジョンの具現に向け、毎月の職員会議示達でビジョンの具体的な取組みを明確に示し、教職員一人一人に学校経営参画意識をもたせる。 ・「昨年度よりワン・アクション」の合い言葉	A
	○ 教職員人事評価制度の面談等の有効活用を図り、職員との人間関係づくりに重点をおき、日頃の声かけと教職員の話に丁寧に耳を傾け、教育活動に一丸となって取り組めるようとする。	A
	○ 保護者や地域にも学校経営・運営ビジョンを示し、学校だよりやPTA全体会等でその状況を知らせるとともに、年3回の自己評価を実施し、学校評議員会、第三者評価委員会の意見を取り入れながら改善を図る。	B
	○ 開かれた学校づくりをする。 ・学校評議員会の計画的な実施と活用、改善 ・フリー参観の実施と積極的な情報の提供（学校だより、学年だより、保健だより、学校図書館だより、ホームページ等）	A
	○ 幼小中の連携を図り、「桑折町のめざす15歳の姿」への共通理解を持ち、自立（自律）して生きる児童を育てる。	B
課題等	○ 職員会議の示達において、校長の方針を明らかにするとともに、学校行事等に併せて、その意義やどの教育目標の具現となるのかを確認させて、学校経営・運営に参画する意識を高めた。 ○ 「昨年度よりワン・アクション」を合い言葉とすることにより、前年度踏襲を改善し、一つ一つの教育活動を意義のあるものとし、教育活動のマンネリ化防止に努めることができた。 ○ 保護者の声に耳を傾ける時間を確保し、信頼関係を構築するとともに、日々の実践に改善を加えながら教師自身の指導力向上を図る。 ○ 学校の校訓や教育目標、特色ある教育活動について、保護者や地域に情報をさらに提供し、学校に対する理解を深め、協力を促していく。 ○ フリー参観や学校・学年だより、ホームページ等で学校の教育活動の情報を提供しているが、保護者アンケートで良い評価を得た。今後も適切な情報提供に努め開かれた学校づくりをめざす。	

(2) 今年度重点目標「笑顔いっぱい・（豊かな心）」「元気いっぱい（健やかな体）」「夢いっぱい（確かな学力）」の児童の育成と不登校・いじめのない、安心・安全・美しい環境の学校づくり

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	1 笑顔いっぱい、元気いっぱい、夢いっぱいの児童を育てる。 2 児童の学力向上に向け、教職員のよさを生かした組織的な研修を行い、教師主体の授業から児童主体の授業へ改善を図。 3 不登校・いじめの絶無をめざす。	A
実践事項	○ 日々の授業の充実と学力向上、学びの習慣の定着を図り、現職教育をさらに活性化させて授業力の向上を図る。 ・校内研修（現職教育）講師招聘による一人一授業の実践と付箋を活用した事前事後研究会	
	○ 学習訓練の徹底を図るために、学習のきまり「桑折町学びのスタンダード」を活用する。	A

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県の事業「授業スタンダード」の活用を図り、問題解決的な学習とめあてとまとめの時間の確実な確保に努める。 ○ 読書に親しむ児童を育てるため、家読の日を充実させ、読書を強力に推進する。 ○ 体育の授業の充実を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・運動身体づくりプログラムの確実実施 ・1時間の運動量確保 ・朝のマラソン、業間遊びの継続・推進 ○ 基本的な生活習慣の育成を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「明るく笑顔いっぱいの挨拶・返事、靴そろえ、ありがとうの感謝」の指導 ○ 仲間、本物、感動のある諸活動を多く取り入れた、半田醸芳ならではの地域に根ざした体験活動と思考活動の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・半田銀山祇園囃子 ・ほたる学習 ・半田の歴史 ○ 道徳の授業の充実と「ありがとう」の感謝の心の交流を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観の道徳授業公 ・心に響く対話する道徳の実践 ・日々、定期の教育相談、QUテストによる児童の実態の的確な把握と問題の早期発見、早期対応、早期解決、 ・生徒指導協議会による教職員の共通理解 ○ いじめ・不登校出現ゼロと望ましい交友関係と温かい学級集団の育成を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ミニケース会議の随時開催 ・組織「チーム半田」 ○ 学校施設の日常、定期点検の実施による安全の確保と校外での事故防止に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ・半田地域「見守り隊」との連携・連絡強化 ○ 校地内の美しい環境整備に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ・緑の少年団による栽培活動や感動と共に感動を育む学習環境づくり 	B B A A A B B A A
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県北教育事務所、町教育委員会指導主事など外部講師を招聘して、お互いに検証し合う研究授業の機会もち、実践してきたことで、研修に対する教師の意識を高揚させることができた。 ○ 本校児童の学力を高めるために、本講の課題である読解力や活用力の育成、基礎基本の定着のために指導の重点化を図り、さらに研修を深める必要がある。残された期間で落ち込みがある教科の単元を重点的に指導し。さらに課題を解決したい。 ○ 授業力向上のために、教師間の情報交換や研修の時間を教育課程に位置づけ全員で向上していく体制を次年度確立していきたい。児童・保護者の声に耳を傾ける時間を確保し、 ○ 地域ボランティアと連携を図った半田銀山祇園囃子の継承活動、ほたる学習、半田歴史学習など「ふるさと学」として、半田地区ならではの特色ある教育活動の展開・充実を図ることができた。児童の関心も高く、保護者からもよい評価を得られている。地域に生きる児童の育成のため、今後も地域の教育力を生かした教育活動の充実を関係機関との連携を強化しながらめざしていきたい。 ○ 半田銀山祇園囃子の継承活動篠の様々な体験活動の充実をめざし、開かれた教育課程編成や指導計画作成の工夫を図り、特色ある教育活動を継続していく。 ○ 県の学校保健会から表彰を受けた「半田地域見守り隊」の協力は児童の安全に欠かせないものであり、さらに連携を強化していきたいと思うが、児童にも自分の命は自分で守る意識を高めていきたい。 ○ 不登校出現率ゼロは達成できなかった。幼稚園からずっと同じ仲間の集団であることは、児童にとって良い面もあるが、集団での立ち位置が決められてしまい、なかなか自分を出せずにいる児童もいる。今回の事例もそのことが原因の一つと考えられる。井の中の蛙にならないよう、視野をもっと広げていく必要がある。 ○ 設備の老朽化に伴い、保守点検や異常箇所の改善を十分行ってきた。ランドセルの大型化に伴い、教室のロッカーが狭くてランドセルが入らないなど、関係機関との連絡を密にして児童が安心して活動できる場を提供できるようにしていきたい。 ○ 児童は緑の少年団として、栽培活動や花壇づくりに意欲的に取り組み、きれいな環境づくりに取り組んでいる。 	

(3) 地域や保護者に信頼される教職員の育成と教職員一人一人の危機管理意識を高め、事故や不祥事の絶無を期す。

項目	主な実践事項	評価 達成状況
重点事項	1 地域や保護者に信頼される教職員を育成する。 2 教職員一人一人の危機管理意識を高める。	B
実践事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員の能力や勤務の状況を把握し、下の3つを目指す使命感あふれる教師を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童のよさを伸ばし、本気で教え、鍛える教師 ・向上心をもち、常に自分を高めようとする教師 ・児童・保護者・地域から信頼される教師 ○ 心に響く服務倫理委員会を開催する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを絞った具体的な実践事例 ・担当が中心になって提案するボトムアップの服務倫理委員会 ・外部講師を招いての服務倫理委員会 ○ 保護者との信頼を基盤に丁寧で細やかな連携を進める。 ○ 教職員一人一人の倫理観を高め、組織を生かした不祥事ゼロをめざす。 <ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーな半田醸芳小学校服務倫理委員会だより「啐啄同時」の発行 ・不祥事ゼロにむけての「宣誓書」 	B
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 使命感あふれるすばらしい教師になるためには、さらなる教師力・授業力をあげることがのぞまれる。それには、教師間の情報交換の場や指導法を交流する時間と場を設けたり、互見授業ができる体制を整えたりすることも必要である。また、児童と向き合う時間の確保も必要である。 ○ 服務倫理委員会において、職員会議毎に、テーマに沿った議題を話し合い、自分のことと置き換え、他人ごとにならないよう指導してきた。不祥事防止の文書は、半田醸芳小学校服務倫理委員会だより「啐啄同時」ですぐに教職員に示し、臨時の打合せを持って徹底した不祥事絶無をめざした。不祥事ゼロにむけての「宣誓書」も効果のある取組であった。今年度も不祥事・事故ゼロであったことを大きな成果とし今後に繋げたい。 	A

評価は、A, B, C, D の4段階評価とする

- A (4) : 十分に目標を達成している。
- B (3) : おおむね、目標を達成している。
- C (2) : やや目標の達成には至っていない。
- D (1) : 目標を達成していない。

※ 記述に当たっては、1、2、3の項目を踏まえて、内容により (1)、(2)、(3)、…、と記述してください。昨年度の形式・内容等を参考にしてください。

【校長学校経営評価】

[別紙1]

平成30年2月9日

学校名 桑折町立伊達崎小学校
職氏名 校長 宮内 憲司

小立郡福島伊桑眞達折印崎町達

平成29年度学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

スローガン 「学ぶ楽しさを実感し、児童の笑顔と瞳の輝く学校」
～学校に行きたくてしょうがない～

<学校経営5つの柱>

- 「学力向上（授業第一）」
- 「自己肯定感の向上（励ましと賞賛）」
- 「安全安心な学校づくり」
- 「体力向上」
- 「地域に根ざした教育」

(1) 「知徳体」の調和のとれた豊かな人間性と実践力のある子どもを育てるため、組織を生かした学校経営を推進する。

- ④ 確かな学びを実現する。<「共に学び合い、高め、つなぐ」…授業の伊達崎>
- ④ 豊かな心を育む。<「教育活動全体を通して」…挨拶と返事の伊達崎>
- ④ 健やかな体を育む。<「自分を知り、高める」…継続の伊達崎>

(2) 教職員の職務遂行能力の向上を図る。

- ・ 授業力向上
- ・ 生徒指導力向上
- ・ 学級経営力向上

(3) 「安全で安心な学校づくり」の具現化を通して、「生き抜く力」を育む。

- ・ 教職員の危機管理意識の高揚
- ・ 児童の事故防止（早期発見・早期対応）
- ・ 危険予知と回避能力の向上を図る

(4) 「教師の資質向上と不祥事を防止」するために、実態に応じた指導を推進する。

- ・ 「不祥事根絶のための行動計画」を基にした取り組み
- ・ 教職員の不祥事防止のための工夫・改善（面談時の自己の客観視、アンケート）
- ・ 体罰、わいせつ、セクハラ、交通事故防止に重点を置いた取り組み

2 学校経営総合評価

(1) 「知徳体」の調和のとれた豊かな人間性と実践力のある子どもを育てるため、教職員の共通理解と共に実践を通して「思考力・表現力・読解力」の育成に努めてきた。特に、地域人材や豊かな地域素材を生かした体験活動を基盤として取り組み、子どもの姿（各種行事、各種テスト結果）から着実に力が高まっていることが確認できた。更に、2学期以降陰山メソッドによる「読み・書き・計算の徹底反復」を朝の活動のスタンダードに位置づけ全教員が同一歩調で指導することにより、教職員の指導格差を埋め学力の学級格差を補完する一助となっている。その結果、児童の集中力を高め、学習への心構えづくりができ、着実に基礎・基本の定着が図られてきている。また、大きな柱に一つとして教育活動全体を通して、「自己肯定感の向上」を目指してきた。子どもの頑張りや良さを見取り賞賛することや、自主性や主体性を育てるために児童会活動や各種行事で意図した児童への働きかけを全教員が同一歩調で取り組み、各種行事での子どもの姿に成長の様子を伺うことができた。また、ふれあい活動や清掃活動など各種活動で意図的に縦割り班で行い、上級生が下級生を思いやり、下級生が上級生を慕う姿が見られ、重点事項である「親切・思いやり」といった道徳心の向上が見られた。体力向上については、体育専科教員を活用したTTによる授業やブロック合同体育を実施したり、あぶくまマラソンの推進や芝生の校庭を活用した多様なスポーツに触れる機会を多くすることで、運動する習慣と持久力の向上が成果としてみられた。

(2) 教職員の職務遂行能力の向上については、「授業が第一」と考え「桑折町授業の改善・充実の視点」とふくしまの「授業スタンダード」をもとに、話し合いを重ね本校の研究の方向性について全教員の共通理解のもと実践することができた。特に、個々の教師が自らの授業力を高めたい視点を明らかにし、一人1研究授業等（算数科に限定）を行えたことは、自身の授業力向上だけでなく、小学校6年間の算数科の学びの系統性を確認し、「つなぐ」ことを意識した授業実践となった。今後は、日々の授業の充実を図っていきたい。

生徒指導力に関しては、児童理解のために多面的・多角的に「児童一人一人を見る」ために定期的ないじめ調査アンケートや外部人材を招聘したいじめ防止委員会の開催、Q-Uテストの実施と分析、校内の生徒指導委員会や就学適性委員会の開催による情報交換を定期的に行い、問題点について全職員で共有し組織的に対応することで、教職員の生徒指導観が改善されてきた。また、指導に課題のある教職員に対し個別に指導助言を繰り返したり、教職員に各種資料を提示したりして、児童理解について知識を深めることができたと考える。特に、養護教諭を

コーディネーターとして、組織的に保健室登校児童への対応を行うことができたことは大きな成果であった。

学級経営力については、「教師の笑顔、愛と信頼」を基盤として、各学年の発達段階や児童一人一人の児童の特性に応じた指導助言を心がけてきた。その中で、特に6年生は大きな成長を感じることができた。学習習慣や生活習慣については、学校独自で行っている「伊達崎小学びの強化週間」と関連させながら取り組んできた。保護者に対しても、HPや学校だより、懇談会等で学校の取り組みに対する理解と啓発活動を行ってきた。今後、一部の教育力の低い家庭に対しての指導・支援が課題となった。

- (3) 施設設備の定期点検を実施し、改善点を町教委に報告し、町教委ですぐ対応していただいた。
実際に即した防災訓練、防犯訓練等関係機関の協力を得て工夫改善しながら行った。また、子どもの事故防止のため時期に応じた指導を行うとともに緊急の不審者情報や弾道ミサイル発射時の対応を確認できた。
- (4) 職員会議等で各種通知や新聞報道に即したチェックリストを活用してきた。また、各学期末ごとに不祥事根絶のための行動計画に基づくアンケートを実施して、分析と対応を講じたり、教職員との個別面談時に自己を客観的に分析する時間を取り、不祥事根絶に向けて取り組んできた。白石方面や福島市内方面から遠距離通勤をしている教職員が多く、悪天候時や降雪時の注意喚起を適宜に行ってきました。
- (5) 地域への情報発信について
HPアップ率99%、4月～1月末までの閲覧者が約8万件を超えた。学校教育に関する関心度が高いので、積極的にHPや学校だより（現在14号発行）を行い、学校の教育活動への理解促進を図ってきた。

3 学校経営課題の実施状況

(1) 「知徳体」の調和のとれた豊かな人間性と実践力のある子どもを育てるために

項目	主な実践事項	評価
重点事項	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ 確かな学びを実現する。<「共に学び合い、高め、つなぐ」…授業の伊達崎> Ⓑ 豊かな心を育む。<「教育活動全体を通して」…挨拶と返事の伊達崎> Ⓒ 健やかな体を育む。<「自分を知り、高める」…継続の伊達崎> 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育活動全体を通して「思考力・表現力・読解力」を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験的な学習、問題解決的な学習を推進 ・ 共に学び合い、思考力を高める授業の推進 ・ 話す力、聴く力の向上（発表集会等） ② 個に応じた学習指導を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学力の分析と、個別指導・支援の工夫 ③ 地域外部講師の積極的活用を通して、体験的活動の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科、総合的な学習の時間と教科学習を関連付けた学習活動の推進（田んぼの学校、果樹栽培等） ④ 基礎・基本の確実な定着を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 二学期より陰山メソッドによる「読み・書き・計算の徹底反復」活動を取り入れたため、漢字・計算大会を取りやめて「読み・書き・計算の徹底反復」の取り組みについて評価を実施。 ・ 週3日（水・木・金）朝の10分間を全学年で実施。 ⑤ 読解力向上のため「読書活動」を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 読書の時間の設定と家読の啓発活動 ※ 二学期より朝の全校一斉読書の時間を陰山メソッドによる「読み・書き・計算の徹底反復」活動に移行したため、読書啓発活動を中心取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「読了書」授与による啓発 ・ おすすめ読書の廊下展示と図書委員会によるポスター作成 ・ 読書ボランティアによる読み聞かせ読書の推進 等 	B
実践事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 道徳の時間を要とし、各教科や行事と関連を図り教育活動全体を通して道徳性を培う。 ② 道徳の授業時数の確保と指導法の工夫改善を図る。 ③ 「礼儀」「親切・思いやり」に重点を置き、教育活動全体を通して育成する。 ④ 心のケアと潤いのある環境づくりに取り組む。 (言語・緑化・音楽・掲示・整理整頓) ⑤ 郷土愛・愛校心を育むため、地域の教育力を生かすとともに地域の素材を積極的に活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域人材、地域行事、各種団体との連携 	B

	<p>⑥ 開かれた道徳の授業づくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観時における道徳の授業の公開 <p>① 自己の体力を知る。(体力テスト年2回実施、自分手帳の利用)</p> <p>② 運動の日常化を図る。(年間を通してのあぶくまマラソンの励行、芝生を利用した多様な遊びの工夫)</p> <p>③ ブロック合同体育の実施と体育専科教師と担任によるTT授業を推進する。</p> <p>④ 体育の授業づくりと運動の日常化を図る。 (体育専科教員による体育TT授業の実施とブロック合同体育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校庭の芝生化による多様なスポーツや遊びの習慣化 基本的生活習慣の確立(生活習慣アンケートの実施・年2回) <p>① 「学びのスタンダード推進事業」との連携を図る。</p> <p>② 教員の各研修会や授業研究会への積極的参加を促す。</p> <p>③ 「読み・書き・計算の徹底反復」活動を推進する。</p>	B
	<p>○ 「思考力・表現力・読解力」の向上を目指し、授業だけでなく教育活動全体で取り組んできた。特に、表現力に関しては町音楽祭や学習発表会等でその成果が表れた。</p> <p>○ 休み時間など各担任が個別指導、ノート指導を行うなどして指導・支援を行った。</p> <p>○ 地域の方々の全面的な協力により、充実した体験学習活動を行うことができた。</p> <p>○ 二学期から、朝の読書活動と漢字・計算大会に替わって町教育委員会の施策である陰山メソッドによる「読み・書き・計算の徹底反復」学習を、週3日(水木金)の朝の時間にスタートさせた。「最大限の効果を上げる」ことを合言葉とし、全教員で共通理解を図って取り組み、順調に推進できている。</p> <p>○ 各学年1回ずつ読書ボランティアを依頼し、読書への意欲向上に努めてきた。また、各学年廊下におすすめ読書として、本を置いていつでも本を手にとれる工夫を行っている。授業の始まる前や問題演習が終わったあと、少しの時間でも読書する習慣づくりを行っている。読了賞を設定し、賞賛する場を設定している。学校だよりやホームページで保護者への呼びかけを行っている。12月に実施した読書量アンケート結果から昨年と比較して読書量が増えてきた。</p> <p>● 教員個々の授業力に差があり、授業研究会だけでなく、日頃の授業充実・改善に向けた取り組みが必要であった。</p> <p>○ 子ども一人一人の特性を見抜きながら、身に付けさせたい道徳性を明確にし、教育活動全体を通して行っている。特に、横の連携を大切にし、全教職員で子どもを見て育てる体制ができている。</p> <p>● 年4回の授業参観のうち必ず1回道徳の授業を行うことはできたが、来年度道徳教科化に向けた校内研修については工夫・改善が必要であった。</p> <p>○ 「礼儀」「親切・思いやり」に重点を置き教育活動全体を通して取り組んできた。特に、ふれあい活動や清掃活動など各種活動で意図的に縦割り班で行うなどして通り組み、上級生が下級生を思いやり、下級生が上級生を慕う姿が見られるなど、成果があった。</p> <p>○ 花壇作業や児童会計画による全校生草取り作業を実施し、愛校心と緑化環境教育に取り組んできた。</p> <p>● 外部講師「心の先生」を各学年とも年1回依頼したが、講師の話が道徳の価値項目と一致しないことがあり、今後検討が必要である。</p> <p>○ 自己の体力を知る。(体力テスト年2回実施、自分手帳の利用)</p> <p>○ 運動の日常化を図るため、あぶくまマラソンの実施と表彰、校庭の芝生の利点を生かした多様なスポーツ体験を励行し、スポーツに関心を示し、自発的に運動する児童が増えてきた。特に、体育専科の若手教員が、毎日子どもたちと一緒に遊ぶ、多様な運動を体験させることができたことは、大きな成果であった。</p> <p>○ 全体として持久力が向上し、陸上競技大会でも大きな成果が見られた。</p> <p>○ 体育専科の教員が全学年の体育にT2として授業の指導に加わり、専門性を生かした指導と個別指導を行うことができた。</p> <p>○ 他校の授業参観を積極的に行うことができた(一人3校の他校参観)</p>	A
課題等		

(2) 教職員の職務遂行能力の向上を図るために

項目	主な実践事項	評価
重点事項	<p>① 授業力向上</p> <p>② 生徒指導力向上</p> <p>③ 学級経営力向上</p>	B A B
	<p>① 現職教育の中で「授業改善7つの視点」「学びのスタンダード」を基盤に、本校としての取り組む視点を焦点化・明確化を図りながら授業研究会を全員実施する。</p> <p>② 管理職による日々の授業参観を通して、指導助言を行う。</p> <p>① 生徒指導対応について、管理職がリーダーシップをとって教職員に</p>	B

実 践 事 項	<p>指導・助言する。</p> <p>② 生徒指導の機能を生かした、授業や学級経営ができるように、指導と助言を行う。(Q-Uテストや各種調査の活用)</p> <p>① 学級経営については「教師の笑顔、愛と信頼」を基盤として、各学年の発達段階や児童一人一人の特性に応じた指導助言を心がける。</p> <p>② 学習習慣や生活習慣について、学校独自で行っている「伊達崎小学びの強化週間」アンケートをもとにPDCAサイクルを活用して、個別指導と学級経営に役立てる。</p> <p>③ 保護者との連携を深めるため、連絡帳や学級通信、懇談会等でこまめな連絡を行う。特に一部の教育力の低い家庭に対しては、直接コミュニケーションを取っていく。</p>	A
課 題 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現職教育の中で「授業改善7つの視点」「学びのスタンダード」を基盤に、本校としての取り組む視点を焦点化・明確化を図りながら授業研究会を全員実施することができた。特に、全教師で議論を繰り返し、本年度の本校の研究の方向性について共通理解を深め特に、個々の教師が自らの授業力を高めたい視点を明らかにし、一人1研究授業等(算数科に限定)を行えたことは、自身の授業力向上だけでなく、小学校6年間の算数科の学びの系統性を確認し、「つなぐ」ことを意識した授業実践となった。また、町教委の指導主事に毎回授業を見ていただき、指導助言を受けたことは有意義であった。 <ul style="list-style-type: none"> ● 教職員間の指導力の差はなかなか改善できなかつた。 ● 日々の授業の質を高めるために1日1回以上の授業訪問を行っているが、指導助言については今後とも工夫していくといきたい。 ○ 児童理解のために多面的・多角的に「児童一人一人を見る」ために定期的ないじめ調査アンケートや外部人材を招聘したいじめ防止委員会の開催、Q-Uテストの実施と分析、校内の生徒指導委員会や就学適性委員会の開催による情報交換を定期的に行い、問題点について全職員で共有し組織的に対応することで、教職員の生徒指導観が改善されてきた。 ○ 指導に課題のある教職員に対し個別に指導助言を繰り返したり、教職員に各種資料を提示したりして、児童理解について知識を深めることができたと考える。 ○ 養護教諭をコーディネーターとして、校長との意思疎通を図りながら保健室登校児童への組織対応を行うことができたことは大きな成果であった。その結果、養護教諭の生徒指導力が高まった。 ○ 特に、発達障がい児への対応については、特別支援教育充実のため、関係機関(SC、元優秀教員等)との連携においては、町教委の協力もあり大変充実して行うことができた。 ● ただし、まだまだ個々の教師や支援員の子ども理解(見る、看る、観る、診る)や対応する力は不十分であり、今後とも指導・助言を繰り返していく必要がある。 ● 全体としては、こまめに保護者との意思疎通を図り、関係を築きながら子どもの状態を捉えた個別指導と学級経営を行っているが、子どもや保護者との良好な関係を築けない教員がおり、対応せざるを得なかつたことは残念であった。その都度、教頭と連携しその教員に対し指導と対応を行ってきた。 ● 学級経営については、各種アンケートやQ-Uテスト結果の分析を生かし、PDCAサイクルとして学級経営の改善を図る工夫が必要であった。 	B

(3) 「安全で安心な学校づくり」の具現化を通して、「生き抜く力」を育むために

項目	主な実践事項	評価
重点事項	① 教職員の危機管理意識の高揚 ② 児童の事故防止（早期発見・早期対応） ③ 危険予知と回避能力の向上を図る	B A B
	① 会議や研修会等でリスクマネジメント、クライスマネジメントについて教職員の意識の高揚を図る。（校長指導のもと） ① 「報告・連絡・相談」がスムーズに行われるよう職員間との信頼関係を構築する。（多くの目で） ② 定例の校内生徒指導協議会（いじめ対策委員会、不登校対策委員会、校内適性就学委員会）を開催し、共通理解や共通指導による迅速な対応に心がける。 ③ 「ホームページ」や「学校だより」等で安全教育について広く家庭に啓発する。 ④ 熊出没や不審者情報など、町教委や近隣学校と連携し、速やかに保護者への連絡と対応ができるようにする。	B
	① 関係機関と連携した避難訓練・防犯教室等による、危険予知と回避能力の育成を図る。	B
実践事項	○ 職員会議等で、校長講話から危機管理についてリスクマネジメントとクライスマネジメントについて指導を行った。	A

課題等

- 定例のいじめ防止対策委員会にSSWを招聘して開催したり、特別支援教育充実のため、関係機関（SC、元優秀教員等）と連携を密に行ったりして外部機関と連携した組織対応ができる。
- 多くの目で確認し「気付いたことは言葉にする」ことを教職員に周知し、「報・連・相」の体制はできている。
- 第2回避難訓練では、出火場所や時刻を児童に知らせず実施して、消防署の方から課題のご指導をいただくことができた。また、防犯訓練についても、その対応について指導していただき。北朝鮮の弾道ミサイルの対応についても、町連Pの協力により対応マニュアルを作成することができた。
- 緊急時の連絡方法について、「ホームページ」や「学校だより」で随時、保護者に知らせる体制はできている。
- 9月通学路に蜂の巣情報が4件あったが、教育委員会へ連絡して速やかに駆除していただいた。

(4) 「教師の資質向上と不祥事を防止」するために

項目	主な実践事項	評価
重点事項	① 「不祥事根絶のための行動計画」を基にした取り組み ② 教職員の不祥事防止のための工夫・改善（面談時の自己の客観視、アンケート） ③ 体罰、わいせつ、セクハラ、交通事故防止に重点を置いた取り組み	B B B
実践事項	① 「不祥事根絶のための行動計画」をもとに、不祥事根絶に向けて取り組む。特に、期首面談や中間面談での自己の客観視の場を設け自分を見つめさせるとともに学期ごとに自己評価アンケートを実施する。その結果から、課題を把握し改善策を講じる。 ② 教頭と連携し、普段から教職員とのコミュニケーションを密にし、風通しのよい職場作りを行い、職員の心身の状況を把握する。 ③ 事例をもとにした服務倫理委員会を開催する。	B
課題等	○ 「不祥事根絶のための行動計画」をもとに職員会議等で注意喚起している。また、不祥事防止のためのチェックリストの活用や新聞記事の配付、期首中間面談で一人一人に自己の行動を見つめ直す機会を設定してきた。更に、学期末に不祥事防止アンケートを実施して、課題を把握し課題を明らかにしている。 ○ 教頭と連携し、普段から教職員とのコミュニケーションを密にし、風通しのよい職場作りを行い、職員の心身の状況を把握してきた。 ● 事例をもとにした服務倫理委員会の開催については、工夫と改善が必要であった。	

(4) その他（開かれた学校に向けた、情報発信について）

項目	主な実践事項	評価
重点事項	① 開かれた学校づくり ② 地域、家庭とのさらなる連携	A A
実践事項	① 地域関係団体や芝生見守り隊など地域とのつながりを大切にして信頼関係を構築していく。 ② 学校HP等の学校広報活動を通して、日々の教育活動に関する情報公開を積極的に行って、開かれた学校づくりを推進する。 ③ 町教委の「学びのスタンダード推進事業」と関連させ、家読や家庭学習の習慣化、メディアコントロールなど、望ましい生活習慣の定着を掲げ、保護者との連携を図っていく	A B
課題等	○ 青少年育成会議伊達崎部会や交通安全協会、芝生見守り隊や地区防犯協会など各種団体の会合に校長として出席し、学校と地域の連携強化に取り組んできた。顔なじみとなり信頼関係を築くことができた。 ○ 保護者が安心して学校に通わせることができるように、「学校だより」や「学校HP」による積極的な情報公開に心がけたことにより、学校と保護者との信頼関係が醸成され、地域との連携もより密にすることことができた。HPアップ率99%で4月～1月末までの閲覧者が約8万件となった。学校教育に関する関心度が高いので、積極的にHPや学校だより（現在14号発行）を行い、学校の教育活動への理解促進を図ってきた。 ◇ PTA教育講演会で外部講師を招聘し、子どもを取り巻くインターネットの危険性について保護者に啓発することができたが、ゲーム使用時間などまだまだ改善すべき点が多い。 ● 家読や家庭学習の習慣化については、HPや学校だよりで啓発活動を行ってきたが、今後とも工夫や改善をして取り組む必要がある。	

【校長学校経営評価】

平成29年2月9日

学校名 桑折町立釀芳中学校
 職氏名 校長 大木修

平成29年度学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

- (1) 授業の充実を図り、自分の考えを持ち、表現できる生徒を育成する。(知)
- (2) 思いやりの心を持ち、正しく判断し行動できる生徒を育成する。(徳)
- (3) 体力向上と健康づくりに進んで取り組む生徒を育成する。(体)
- (4) 義務教育修了時15歳の姿として~高い志をもって、自分の将来を切り拓いていくこうとしている15歳~を目指す。

2 学校経営総合評価

- (1) 福島県学力調査において、国語・数学・理科・英語の全4教科が県の平均を上まわることができた。また、福島県教育委員会発行の「授業スタンダード」をもとにして授業の改善を図り、生徒が意欲的に取り組む授業を展開できるようになりつつある。
- (2) 大きないじめ事案はなく、落ち着いた学校生活を保持している。また、釀中祭(学校祭)などの学校行事で、生徒たちが積極的に運営にあたる姿も見られる。
- (3) 「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト事業」において優秀校に選ばれた。(県内5校)
また、福島県中学校駅伝大会県北大会で男女ダブル入賞を果たし、それぞれ県大会に出場した。積極的に体育の授業や部活動に取り組む雰囲気ができている。
- (4) 「職場体験学習」「立志式」「高校体験入学」などをとおして、自分の将来について考え、学習や諸活動に取り組む様子が見られる。
- (5) 全校で、不登校生徒が6名、不登校傾向の生徒が3名いる。関係機関と連携しながら、組織的に指導・対応していく必要がある。

3 学校経営課題の実施状況

- (1) 自分の考えを持ち、表現できる生徒を育成する。(学力向上と授業改善)

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	① 学習過程において、学習意欲を高める導入を工夫し、自分の考えを持つ場面と表現する場面を意図的に設定する。 ② 学力向上に向けて、問題練習の機会を多くするとともに、家庭学習の充実を図る。 ③ 落ち着いた授業の基盤をつくる。	B B A
実践事項	①・ 教材研究を充実し、導入において学習意欲を喚起する。 ・ 学習形態を工夫し、自分の考えを発表して話し合い、練り上げる授業をつくる。 ②・ 定着確認シートやフォローアップシートを活用するするとともに、各種テスト前の家庭学習を充実させる。 ③・ 授業1分前着席など「学習5つの約束」を徹底させる。	B B B A
課題等	授業において、話し合いを教師がコーディネートし、対話的で深い学び」つくりたい。また、下位生徒への指導を充実させたい。	

(2) 思いやの心を持ち、正しく判断し・行動できる生徒を育成する。(道徳性、社会性)

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	① 道徳の授業を要として心の教育を充実させる。 ② 生徒会活動を活性化させ、学校生活を主体的に創る意識を高める。 ③ 規範意識を高め、落ち着いた学校生活をつくる。 ④ いじめ、不登校に対する組織的な対応をする。	B B B A
実践事項	①・道徳の授業を充実させるとともに、日常の生活指導、学校行事を通して思いやりの心を育てる。 ②・学校行事（醸中祭等）を生徒が主体的に企画運営に携われるような指導体制を整える。 ③・「静かな朝自習」「落ち着いた給食」「無言清掃」の取組を充実させる。 ・Q U テストを活用し、生徒一人一人の学級内における様子について把握し適切な指導助言を行う。 ④・共通理解、早期発見。早期対応をチームで行う。 ・S C, S S W に生徒指導委員会に参加するようにして、生徒の動向を把握してもらうとともに、各担任による二者相談、S C による 1 年生の全員面談を実施する。	B B A B A A
課題等	他を思いやる行為の意義、大きさを理解し、T P O に応じた行動、明るくさわやかなあいさつができるなど、社会性を高めたい。	

(3) 体力向上と健康づくりに進んで取り組む生徒を育成する。(体力向上と健康づくり)

項目	おもな実践事項	評価
		達成状況
重点事項	① ねらいを明確にした保健体育の授業を充実させる。 ② 運動の楽しさを味わい、意欲的に運動できる環境をつくる。 ③ 健康に関する知識を身につけ、自ら実践する力を育成する。	A B B
実践事項	①・陸上競技や球技など、それぞれの種目について生徒が活動の見通しを持てる単元構成となるように工夫する。学習カードを活用し、学んだことを振り返ることができるようとする。 ②・基礎基本をしっかりと身につけることにより、走る楽しさや球技におけるゲームの楽しさを実感できるようにする。 ・グランドや体育館が広く十分に生徒が活動できるので、活動時間をできるだけ確保し、運動することに充実感を持つようとする。 ・運動部の部活動を活性化させ、体力の向上を図る。 ③・薬物乱用防止教室、情報モラル教室などを開催し、健康を守るとともに、事件事故に巻き込まれないよう、知識と意識を高める。	A B A B
課題等	う歯治療の促進、肥満の解消に努める必要がある。また、部活動において、各領域、各種競技の技能を高める取組を進めたい。	

(4) 「高い志を持って、自分の将来を切り拓いていこうとする15歳」をめざす。(志)

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	① 高い志を持って、自分の将来を切り拓いていくことのできる生徒を育成する。(志の教育を推進する。) ② 望ましい学習・生活習慣を身につけさせる。 ③ 奉仕活動に積極的に取り組ませる。	B B A
実践事項	①・1年生は「職業人に学ぶ」において、2年生は「職場体験学習」において職業観や勤労観を深める。3年生は「高校調べや高校体験入学」において進路への見通しを持つ。 ・入学式、立志式、卒業式をとおして、志をしっかりと持てるようにする。 ②・生徒一人一人の家庭学習、スマホやゲームの時間、就寝時間を把握し、望ましい学習生活習慣について指導する。 ③・サマーショートボランティアや地域清掃等に、積極的に取り組む。	B B A
課題等	志の教育について、総合学習、学校行事等を関連させて系統的に進められるよう、全体計画を整備する。また、「学習・生活記録」に家庭学習などの時間を記録させ、助言する。さらに、志を支える教養を高めるための読書活動を充実させる。	

評価は、A, B, C, Dの4段階評価とする

A (4) : 十分に目標を達成している。

B (3) : おおむね、目標を達成している。

C (2) : やや目標の達成には至っていない。

D (1) : 目標を達成していない。

【校長自己評価】

平成30年 2月9日

学校名 桑折町立釀芳小学校

職氏名 校長 木村政文

平成29年度学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	B
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、教職員人事評価システム制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	B
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確實に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員とともに児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	B

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	B
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	B
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は、学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中及びP T Aとの連携に努めたか。	B

評価は、A, B, C, Dの4段階評価とする。

A (4) : 十分に目標を達成している。

B (3) : おおむね、目標の達成している。

C (2) : やや目標の達成には至っていない。

D (1) : 目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

【校長自己評価】

平成30年2月9日

学校名 桑折町立桑折町立睦合小学校
職氏名 校長 大槻 誠

平成29年度学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	B
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	A
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	B
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	A
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	A

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確實に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員とともに児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、学力の向上に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	A
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	A
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	校長は、学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中及びPTAとの連携に努めたか。	B

評価は、A, B, C, D の4段階評価とする

A (4) : 十分に目標を達成している。

B (3) : おおむね、目標の達成している。

C (2) : やや目標の達成には至っていない。

D (1) : 目標を達成していない。

【校長自己評価】

平成30年2月7日

学校名 桑折町立半田篠芳小学校

職氏名 校長 宮戸 広子



平成29年度学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	A
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	A
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確實に実施したか。	A
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員とともに児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	A
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	A
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	A
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	A

評価は、A, B, C, D の4段階評価とする

A (4) : 十分に目標を達成している。

B (3) : おおむね、目標の達成している。

C (2) : やや目標の達成には至っていない。

D (1) : 目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

【校長自己評価】

平成30年2月9日

学校名 桑折町立伊達崎小学校

職氏名 校長 宮 内 憲 司



平成29年度学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	A
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確實に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員とともに児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	B

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	A
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	A
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	A
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は、A, B, C, D の 4 段階評価とする

- A (4) : 十分に目標を達成している。
- B (3) : おおむね、目標の達成している。
- C (2) : やや目標の達成には至っていない。
- D (1) : 目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

【校長自己評価】

平成30年2月9日

学校名 桑折町立釀芳中学校

職氏名 校長 大木 修

平成29年度学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、新たな人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	B

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	A
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は、A, B, C, Dの4段階評価とする

A (4) : 十分に目標を達成している。

B (3) : おおむね、目標の達成している。

C (2) : やや目標の達成には至っていない。

D (1) : 目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

3 教育委員会の園長に委任する事務の管理 及び執行状況

平成30年2月9日

【こども園長学校経営評価】

園名 桑折町こども園長
職氏名 園長 三村 孝子

平成29年度桑折町こども園経営評価報告書

1 園経営の方針

- (1) 「15歳のめざす姿」の実現に向けて、保育所、幼稚園、小、中学校それぞれの教育内容や指導の在り方について共通理解を図り、小学校への円滑な接続を意図した保育・教育を推進する。
- (2) 『心豊かにたくましく生きる子ども』の育成のために、「丈夫な体をもつ子ども」、「友達とよく遊ぶ子ども」、「進んで活動する子ども」を目指す。
- (3) 幼稚園の統合を受け、事故なく安心して生活ができるような環境を提供する。

2 園経営総合評価

- (1) 小・中学校の授業研究会への参加や小学校長を講師に招いての保育研究会を実施したこと、小学校との連続性のある指導法について学ぶことが出来た。
- (2) 体力、運動能力向上のため、1学年1実践の取組みや外部講師による運動遊びを実施するとともに、戸外での活動を意図的に多く取り入れたことで、園児たちが自ら積極的に体を動かす姿が多くみられるようになった。また、あいさつや集団生活の中の決まりや約束をきちんと守る姿も見られ多くの子どもたちと関わって遊ぶことができた。
- 4園統合による新たな環境に触れることで、意欲や探求心が刺激され自分なりにいろいろな活動に取り組もうとする姿が見られた。
- (3) 「家庭生活習慣のポイント」の重点である「早寝、早起き、朝ご飯」、「元気なあいさつ」、「絵本の読み聞かせ」、について、家庭や園でも取り組むとともに、今年度は川島隆太先生をお招きしご講話をいただいた。そのことにより、今年度はより保護者の意識が高まり、実践しようとする姿が見られた。
- (4) 安心して生活ができるような環境を提供することにより、大きな事故やけがなく1年間過ごすことができた。また、昨年度からの4園との交流会を通し統合後もスムーズに園生活に慣れることができた。

3 園経営重点事項の実施状況

(1) 幼児の健康な心と体を育むために

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	<input type="radio"/> 体を動かす心地よさや楽しさを感じ取らせる教師のかかわりの工夫 <input type="radio"/> 体の基礎をつくり運動機能を発達させる遊びの充実	A
実践事項	・ 体を動かす遊びの継続的な取り組みの推進	A
	・ 1学年1実践、1学級1実践	A
	・ 外部講師による幼児への運動遊びの指導	A
	・ 運動遊びを誘発する環境の構成	B
	・ 身体諸機能の発達に応じた場の工夫	B
	・ 意欲を引き出す教材や教具の提示	A
課題等	○ 調査の結果、前年と比較し運動能力が高まっている。引き続き、運動能力、体力向上に向け様々な取り組みを行っていきたい。	

(2) 豊かな心を育むために

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	○ 絵本に興味や関心を持てるような場や提示の工夫	A
実践事項	・ 経験や体験、または季節や時期に応じた絵本の提示の工夫	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日1冊絵本を読む時間の確保 ・ 絵本の部屋の充実 ・ 家庭での読み聞かせの啓蒙（1日1冊） 	A B B
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年長組の絵本の部屋の充実とともに、新たに年少・年中組の絵本のコーナーを設置した。そのことにより、年齢に応じた絵本に親しめるようになってきた。 ○ 家庭での読み聞かせについては、読む家庭と全く読まない家庭の差が広がってきており、実態があるので、毎週全家庭に幼稚園の絵本を持ち帰るようにしたことで最低でも週1冊は読めるように家庭と関わっていき、今後の成果を期待したい。 	

(3) いろいろな事に興味や関心を持たせるために。

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな経験や活動の提示の工夫 ○ 知的好奇心を満足させるような環境の工夫 	B
実践事項	・ 年齢に合った、様々な経験や活動の精選	B
	・ 四季折々の自然事象や動植物や園内外の自然に触れさせる実体験の充実	B
	・ 行事に伴う意味や由来の理解	A
	・ 周囲の友達や環境などに関心を持たせるための言葉かけの工夫	B
	・ 十分に遊びを楽しませる時間と場の確保	B
	・ 絵本や図鑑などの活用	A
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年齢に応じた興味や関心の持てる経験や活動を提示してきた。特に行事に参加することで季節を感じたり、行事の意味や由来を知ったりすることができた。 ○ 周囲の友達がどんな事をして遊んでいたのかを知らせたり、友達ができるようになった頑張りなどを知らせる時間を持った事で、それが刺激となり、他の友達に気付かせると共に自分もやってみたい、出来るようになりたいという思いに繋がった。ただ、全員ではないので今後も継続していきたい。 	

4) 事故なく安心な生活を送るために。

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	○ 幼稚園統合を受け、安心、安全な幼稚園生活の確保	A
実践事項	・ 月1回の安全点検の実施やその都度の各担任の見回り	A
	・ 朝の立哨指導の実施	A
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな事故、けがなく1年過ごすことができた。理由としては昨年度からの4園の交流会を実施したことにより、園にすぐに慣れることができたことや、また安全点検の実施に伴い、危険な箇所は早期に改善してきたこともあり安心・安全な生活を送る事が出来た。 ○ 交通指導員の要請や保護者の交通ルールへの意識付けを行うことで、交通事故を防止することができた。また、職員の立哨指導も成果に繋がったと思う。 ○ 安全・安心な生活を送るために、避難訓練（火災・地震・不審者・弾道ミサイル）などを年間10回実施した。 	

評価は、A, B, C, D の4段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。

B(3)：おおむね、目標を達成している。

C(2)：やや目標の達成には至っていない。

D(1)：目標を達成していない。

【園長自己評価】

平成 30年 2月9日

桑折町立 酒 芳 幼稚園

職氏名 園長 三村 孝子

平成29年度 幼稚園経営自己評価

1 園長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	園長は、教育目標の具現のため、園経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その理解に努めたか。	B
2	園長は、園経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、その取り組みを評価したか	B
3	園長は、めざす園経営の理念を保護者に具体的に示し、園経営上の課題の解決に当たったか。	B
4	園長は、園児が毎日を楽しく通園し、教職員が意欲をもって園経営に参画できるよう、「園風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	A
5	園長は、幼稚園教育の理念を深く理解し、園の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して園児の自己実現が図れるよう全力を挙げて園経営に努めたか。	B

2 教育（保育）及び園施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	園長は、教員（保育士）の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め、教育課程（保育）を確実に実施したか。	B
2	園長は、教職員とともに園児の特性や能力等の実態に応じ、特色ある保育活動を開発し、園児の遊びの充実に努めたか。	B
3	園長は、園児の健やかな成長に資するため、定期に園児の健康状態を把握し、事故ある時は教職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	園長は、園生活不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、園児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	園長は、定期に園内の施設の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、園児や教職員及び保護者・地域の園利用者の事故防止に努めたか。	B

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	園長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、園児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	園長は、教職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、園児が教職員を信頼し、楽しく充実した園生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	園長は、園経営に対する苦情や教職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し、園児が安心して園生活が送れるように努めたか。	A
4	園長は、日頃、教職員が園施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための園の体制を整えるように努めたか。	B
5	園長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	園長は、園児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	園長は、町教育委員会の重点施策を理解し、その実現のために組織を挙げて努力したか。	B
3	園長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、園としてよく連携して地域の保育力の向上に努めたか。	A
4	園長は、町の青少年健全育成、ボランティアセンター、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	園長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、小・中及び家庭との連携推進に努めたか。	B

※ 4-(5)の項目は、保育所において評価対象外

評価は、A, B, C, D の 4 段階評価とする。

A(4) : 十分に目標を達成している。

B(3) : おおむね、目標を達成している。

C(2) : やや目標の達成には至っていない。

D(1) : 目標を達成していない。

別紙2

【所長自己評価】

平成 30年 2月9日

桑折町立 酒 芳 保育所

職氏名 所長 片平 真由美

平成29年度保育所経営自己評価票

1 所長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主な評価事項	評価
1	所長は、保育目標の具現のため、所経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その理解に努めたか。	A
2	所長は、所経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、その取り組みを評価したか	B
3	所長は、めざす所経営の理念を保護者に具体的に示し、所経営上の課題の解決に当たったか。	B
4	所長は、入所児が毎日を楽しく通所し、教職員が意欲をもって所経営に参画できるよう、「所風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	B
5	所長は、所保育の理念を深く理解し、所の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して所児の自己実現が図れるよう全力を挙げて所経営に努めたか。	B

2 保育及び所施設の管理

番号	主な評価事項	評価
1	所長は、保育士等の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め、保育課程を確実に実施したか。	B
2	所長は、職員ともども入所児の特性や能力等の実態に応じ、特色ある保育活動を開拓し、入所児の遊びの充実に努めたか。	A
3	所長は、入所児の健やかな成長に資するため、定期に入所児の健康状態を把握し、事故ある時は職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	所長は、所生活不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、入所児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	所長は、定期に所内の施設の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、入所児や職員及び保護者・地域の所利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主な評価事項	評価
1	所長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、入所児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	所長は、職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、入所児が職員を信頼し、楽しく充実した所生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	所長は、所経営に対する苦情や職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し、入所児が安心して保育所生活が送れるように努めたか。	B
4	所長は、日頃、職員が所施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための所の体制を整えるように努めたか。	A
5	所長は、職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主な評価事項	評価
1	所長は、入所児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	所長は、町教育委員会の重点施策を理解し、その実現のために組織を挙げて努力したか。	B
3	所長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、所としてよく連携して地域の保育力の向上に努めたか。	A
4	所長は、町の青少年健全育成、ボランティアセンター、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A

評価は、A, B, C, D の 4 段階評価とする。

A(4) : 十分に目標を達成している。

B(3) : おおむね、目標を達成している。

C(2) : やや目標の達成には至っていない。

D(1) : 目標を達成していない。

※ 記入に当たって、自己評価の内容・形式は同じですので、評価の欄のみ記入となります。

4 第三者評価委員会による評価

○桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置に関する規則

平成23年4月27日

教委規則第2号

(設置の目的)

第1条 桑折町教育委員会（以下「教育委員会」という。）の所管事務に係る管理及び執行状況について地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条1項に規定する点検及び評価を実施するにあたり、教育施策の改善・充実に向け、同条第2項の規定により外部有識者の知見を活用するため、第三者評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

(所管事務)

第2条 評価委員会は、当該年度における次の各号に掲げる事項について評価し、その結果を教育委員会に報告する。

- (1) 教育委員会関係の管理及び執行状況及び事務局の事務執行に関する自己評価
- (2) 町立小・中学校の学校経営報告及び自己評価
- (3) 町立幼稚園経営報告及び自己評価

(組織)

第3条 評価委員会は、委員3名をもって組織する。

2 委員は、有識者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から2年間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長等)

第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを決める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 評価委員会の会議は委員長が招集し、これを主宰する。

(報告書)

第7条 評価委員会は、当該年度の評価結果を評価報告書にまとめ、翌年度6月までに教育委員会に報告する。

(守秘義務)

第8条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第9条 評価委員会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任規定)

第10条 この規則に定めるものその他、評価委員会の運営に関し必要場事項は教育委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成23年4月1日より施行する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

平成29年度 第1回 第三者評価委員会要項

- ◆ 平成29年6月19日(月)
- ◆ 午後 13:00~14:30
- ◆ 桑折町役場 第2会議室

1 開会のことば(事務局)

2 委嘱状交付

高橋 徹 様 鈴木紀子 様 蓬田宗由 様

3 教育長あいさつ

4 出席者紹介(事務局)

5 協議(委員長)

(1) 委員長あいさつ

(2) 平成29年度評価の進め方について(事務局)

(3) 平成29年度幼稚園、小・中学校経営について

○ 今年度の重点「目標と手だて」(園・各校より)

(4) 質 疑

(5) その他

5 閉会のことば(副委員長)

桑折町教育委員会

平成29年度 第1回「第三者評価委員会」で話し合われた主な内容（要点）

- 委嘱状交付く 高橋 徹氏（2期目）、鈴木 紀子氏（2期目）、蓬田 宗由氏 >
□ 教育長あいさつ
 - 第三者評価委員会の開催趣旨は、法律に基づき、教育委員会の業務全体について、委員の皆様の専門的な立場や基本的な立場から点検・評価をしていただくものである。そして、その結果を議会に報告する、一般に公表することで説明責任を果たすものであり、なにより教育行政の改善充実に役立てていきたい。加えて、各学校で行う学校評価についても、第三者の立場からご意見・ご指導をいただき、評価を充実させていくねらいもある。
 - 今日の会議から平成29年度の点検・評価が始まる。上位に当たる町の総合計画「献上桃の郷 こおり創生プラン」の開始年度であり、節目になっている。教育委員会の業務についても、総合計画の一環として、未来像実現の方針として「志高い人材を育む学びの醸成」を目指し、重点を定めている。高い志を持った桑折町の15歳の目指す姿の実現、幼稚園から小・中学校までの育ちと学びの一貫性を大切にした教育の推進、各世代の学びを醸成する生涯学習活動の推進、社会体育・生涯スポーツ活動、文化芸術活動の振興などの実現に向け取り組んでいきたいのよろしくご指導をお願いしたい。
 - 本日は幼稚園長、小・中学校長にも同席いただき、各施設での方針・計画について述べていただくので、それぞれの園・学校経営についてもご指導賜りたいと考えている。
- 委員長互選 高橋 徹氏に決定 副委員長指名 鈴木 紀子氏を指名
- 協議
 - (1) 委員長あいさつ
 - 桑折町は預かり保育の面でいち早く実施し、他町からも転居してくるような非常に子育てしやすい町である。中学校も成績が良く、他町から自転車通学していく生徒もいた。また、電子黒板も他町より早く入れていたと思う。いじめ・不登校についても少ないし、保護者も協力的であり、教育しやすい町であると思っていて。しかし、課題がないというわけではないと思うので、少しでも桑折町の教育に第三者評価委員会が寄与できればと考えている。
 - (2) 平成29年度評価の進め方について（事務局説明）
 - 第2条の説明
 - 平成28年度事業点検・評価報告書を参考して、12P～40Pの評価をしていただくことを説明
 - 平成29年度の第三者評価委員会の年間計画の説明
 - (3) 平成29年度幼稚園、小・中学校の経営について（各施設 7分程度で説明）
 - 醸芳幼稚園 → 醸芳小学校 → 陸合小学校 → 半田醸芳小学校 → 伊達崎小学校 → 醸芳中学校の順に「今年度の重点」について説明
 - (4) 質疑（○ 質問・意見、→ 応答）
 - 子どもたちの通学路の安全について（鈴木委員）
子どもたちがハザードマップを作成することで、避難するツールや保護者が迎えに行く経路が明確にもなる。集団で避難する際に6年生が1年生を逃がす手段にもなるので是非活用して、訓練をお願いしたい。自然災害が起きたときに親子でどうやって身を守るか話し合ってほしい。
→ 町のハザードマップはある。各小・中学校でハザードマップを作成したことがある。（吉田課長）
→ マップはあるのでその活用を子どもたちと一緒に考えていきたい。（大槻校長）
 - 引き渡し訓練の実施について（鈴木委員）
一人一人の幼児・児童・生徒の状況に応じて、誰に引き渡すのか、誰が最後まで残のかといったマニュアルを作成して、実際に活用を図ってもらいたい。
→ 引き渡し訓練は実践化しており、熊出没の対応についても、メールを活用して保護者に引き渡しの方法などを連絡し、確実に手渡しできるようにしている。
(大槻校長)
→ 学校にいるときや下校途中などの校外の場合など、場面に応じた対応の仕方を考えていきたい。メール対応については間違いない全家庭に届くように、リアルタイムで情報を提供していかたい。（大木校長）
 - 火山灰への対応について（鈴木委員）
火山灰の特徴を知り、乾いているときと雨が降っているときでは対応が変わるので、是非、学習させていただきたい。

- いじめや不登校発生について（鈴木委員）

中学校に進学する際に、友だちがいなくなってしまうことが原因していないか憂慮される。小・中学校間の引き継ぎにおいて、友達関係についても配慮をお願いしたい。

→ 小学校から子どもたちが進学してきた時点で情報提供がある。学級の男女の割合や人数のバランスを考えながら編成している。（大木校長）
- H Pの活用について（蓬田委員）

保護者にとって、各学校でどんなことをやっているのかを知る手段として、H Pは大変有用性が高い。忙しい中、大変でもHPの更新をお願いしたい。

→ HPを更新するにも堪能な先生方がいるかどうかなどに左右される。今後も環境づくりをお願いしたい。（高橋委員）
- 家読の広がりについて（蓬田委員）

一週間に一度でもいいので、読み聞かせを行うことができるような環境を家庭の中に定着させられるように、町連Pでも活動していきたい。幼稚園、小・中学校でも読書に親しむように指導をお願いしたい。
- 日々の授業の充実について（高橋委員）

子どもたちに定着させなければならない能力を育成している場面が見て取れるような、授業の場面を設定できるように、先生方にわかる授業の実践をしてほしい。また、月、年間、小学校6年間、小中学校9年間で身につけるべき能力を培うための計画の見通しを持って授業に臨んでほしい。
- 多忙化解消に向けて（高橋委員）

十分に教材研究に打ち込めるような時間の確保について努力してほしい。
- 特別支援教育について（高橋委員）

特別支援学級がなくても特別支援教育をやらなければならぬので、ユニバーサルデザイン、発達障害者支援法に基づく積極的支援、インクルーシブ教育、合理的かどうかを見極めた配慮について、思考して、教育課程に明記の上、共に生きる社会の実現をお願いしたい。
- 教育委員会の施策に「学校教育に係る経済的支援」とあるが、いつから施策に入れたのか。（高橋委員）実態調査は実施しているのか。

→ 施策項目に入れたのは平成29年度からである。町の総合計画に掲載されているもので、困窮世帯がある中で子どもたちを支援することになっている。具体的には平成28年度から新入生への制服支給、奨学金の見直し・拡充を図ったり、準要保護世帯の経済的支援という形で可能な限り実施している。

実態調査はしていないが、準要保護世帯の見直しをかけた段階で新たに申請してくれる家庭があることからも実態が推察できる。（吉田課長）

→ 病院に保険証が切れたと言ってくる家庭があることからも、支援が必要な家庭が町内にも実在する。（鈴木委員）
- 伊達崎小学校に「体育専科教師」について（高橋委員）

「体育専科教師」という立場があるのか。

→ 加配教員であり、体育専門で全学級の体育をTTで実施している。
- 各第三者評価委員会で話し合われたことの累積について（会田教育長）
 - ・ 中学校進学時における人間関係の引き継ぎについては、いじめや不登校に関する大事なこととしてとらえ、小・中学校間でしっかりとやってきてている。町全体として、本年度5月に関係者全員が集まって引き継ぎの内容の確認を行った。
 - ・ 学校HPについては、各幼小中学校で情報発信がルーティン化してきている。説明責任のための情報発信を組織的に行なうことが大事であり、構築されつつあると考えている。
 - ・ それぞれの子どもたちのニーズに応じた教育を学校教育でやっていくという必要がある。特別支援学級の先生の専門的な知識・技能を共有していくような体制にしていきたい。
 - ・ 就学援助は全国で15%の子どもがその支援を受けている。大阪や東京などの都市部は20%～30%もある。福島県は11%くらいである。町内は5%くらいであったが、拡充するために条件を緩めたところ7%まで上昇した。条件は満たしていても、家庭内の努力で取り下げた状況も見られる。ニーズを把握して対応する必要性を感じる。

(5) その他

- 「桑折町の15歳のめざす姿」と「学びのスタンダード」について説明
- 町内の授業研究会の予定と参観のすすめ

平成29年度 第2回 第三者評価委員会要項

◇ 平成29年10月30日(月)
◇ 午後1時～2時30分
◇ 桑折町役場 第2会議室

1 開会のことば(副委員長)

2 教育長あいさつ

3 協議(委員長)

(1) 平成29年度 幼稚園、小・中学校経営の実践状況について

○ 今年度の重点「課題と改善策」(中間反省)

(2) 平成29年度 前期の主な事業の進捗状況について

○ 「学びのスタンダード」推進事業(中間反省)

(3) 質疑

(4) その他

4 閉会のことば(副委員長)

桑折町教育委員会

平成29年度 第2回「第三者評価委員会」で話し合われた主な内容（要点）

出席者：高橋委員長、鈴木副委員長、蓬田委員
幼稚園長、各小学校長、中学校長

□ 教育長あいさつ

- 本会議は、幼稚園・小・中学校の本年度の重点や町全体の主な事業について、現在の進捗状況を説明申し上げてご指導・ご意見をいただく機会として設定した。
- 平成29年度も半ばを過ぎ、教育活動も充実してきている。具体的には、幼稚園の運動会、小学校の学習発表会、中学校の文化祭など様々な成果を上げてきている。保育・授業研究会による教員の指導力向上や授業の改善・充実を精力的に実施している。小学校では、学力向上の基盤として、2学期から「読み・書き・計算の徹底反復」の活動を導入した。
- 「歴史と文化の町」にふさわしい質の高い教育の実施が進みつつあることを担当・先生方に感謝したいし、うれしさを感じているところである。また、自信も感じる中で、更に高いレベルを目指して取り組んでいきたいと考えている。それぞれに事業等の中間反省について、ご説明申し上げますのでご指導とご意見をお願いしたい。

□ 協議

(1) 委員長あいさつ

座長 高橋 徹委員長

要項に記載されている(1)園・学校経営の実践状況と(2)前期の主な事業の進捗状況について、それぞれ7分程度で説明をお願いしたい。

※ 各園長・学校長が園・学校経営、教育目標の管理、教職員の指導・監督、家庭や地域との連携について、要項P3～P12までの内容を説明した。

(2) 平成29年度幼稚園、小・中学校の経営について（各施設 7分程度で説明）

- ① 饒芳幼稚園 →② 饒芳小学校→③ 陸合小学校→④ 半田饒芳小学校→
⑤ 伊達崎小学校→⑥ 饒芳中学校の順に説明を行った。

(3) 「学びのスタンダード」推進事業の進捗状況について

※ 蓬田指導主事がP13～P20までの内容を説明した。

特に、徹底反復練習の取組、11月7日の川島教授の幼稚園家庭教育学級での講演、11月10日の饒芳小授業公開、11月17日の饒芳中授業公開、アンケート結果から今後の取組について説明した。

(4) 質 疑 (○：質問・意見、→：応答)

- 読書の量に関して多少の発言はあったが、具体的な学年では何冊という目安があるのか。読書経験段階に応じた目標はあるのか。学校と家庭とで共有して取り組めると効果が上がる。(鈴木副委員長)

→幼稚園…精神安定を目指して、毎日1冊の読み聞かせの目標設定とカードの記録・提出を義務づけている。差が出てきている。

- 絵本等の紹介はしているのか。(高橋委員長)

→幼稚園…本を借りていく方は限られているので、絵本の紹介やお薦めの本などを紹介するなど推進していきたい。

- 絵本を読むにしてもどんな本を読めばいいのか明確ではないので、保護者が選ぶ際に戸惑っていると感じられる。(鈴木副委員長)

→陸合小…秋田の研修で見たことだが、「必読書○○冊」が設定されていた。家読の日には、保護者が取り組みやすい絵本関係を薦めている。

- 桑折町にサンキョーハイヤーとのつながりで絵本作家を招いて、イベントをやったり授業をしたりしている。「読み聞かせ」ではなく、「読み語り」と言っていた。そんな方を紹介するのも良いと思う。(高橋委員長)

○ 漫画でも良いと思う。「怪傑ゾロリ」など漫画が少ないと感じた。日本史や世界史、偉人とかでも、読まないよりは漫画であっても良いのではないか。かたい本が多いような気がする。(鈴木副委員長)

→陸合小…蔵書については全ジャンルについて揃えるのは、少人数で選出することやそれなりの予算、司書等が必要である。

- 桑折町には本を買いに行ったり借りに行ったりする環境が少ない。施設では子供たちの意見を入れて本を選択することが必要である。(鈴木副委員長)

→半田饒芳小…本屋からたくさんの本を借りてきて、子供たちに選ばせることがある。

- 国見町では演劇などを行い、その際、本を並べて紹介するなど、町内各学校を巡回するなどの実践があった。(高橋委員長)

→釀芳中…学校側は保護者がどんな本を読み、どんな本を読んでほしいと願っているのか知らないので、アンケートを実施し、その結果を公表した。子どもたちが本を読む場では、保護者も是非読むように共通理解を図りたい。

- 子供たちに読みなさいと言うのは簡単だが、大人が自ら読んでいない傾向が見られる。強制するのはおかしいが、大人から範を示すような呼びかけをしていいたい。(高橋委員長)

→釀芳中…「こんな本を紹介してください」という返答が結構あった。だが、その本が新刊が多かったために紹介できない場合もあった。家庭によって差はあるものの、こんな本を子どもに読ませたいと考えている保護者が、少なからず居ることが確認できた。

- 国語の教科書の巻末等に「こんな本を読ませてください」というページがあることを知らない保護者もいる。中学生くらいまでは、その本の価値や読む目的を知らせて読ませることが大切である。(鈴木副委員長)

- 「学びのスタンダード」でも学校と家庭との連携を図ることで図書館教育にも触れていると思うし、保護者のレベルも上げていかなければならない。(高橋委員長)

- P T Aの方でも23日を家読の日として実施しているが、実践している家庭は少ないとと思う。この運動を広げるために、絵本を子どもと同じ空間で読めるような環境づくりを推奨していきたい。(蓬田委員)

- 幼稚園と小学校4校と同じように交流していきたいという意見が幼稚園長から出たが、幼稚園の子供たちにとって必要と考えているのか。(鈴木副委員長)

→釀芳幼…幼稚園が今年から統合されたことに関わって、各進学先の小学校を園児に体験させたいが、町バスや福祉バスの都合が悪く出かけられないことがある。今後も計画的に実施していきたい。

- 伊達崎小から「言語環境の悪さ」という言葉があったが、子どものことか。(高橋委員長)

→伊達崎小…教師が率先垂範すべきであり、今後も指導していきたいと考えている。

- 釀芳中から「品性を伴った言葉遣い」という言葉があったが、以前の釀芳中の校長から「お祭りの後に子供たちの品性が悪くなる」と言われた。お祭り開催時の中学生の生活について留意すべき必要がある。(高橋委員長)

→釀芳中…様々な祭りがある中、子供たちが持つ活発などに良い意味で影響していると思う。また、主催者側も気を遣っていただいているようである。やはり、時と場所を踏まえて礼節を重んじるなどの家庭・地域の教育力が落ちてきている。いざというときに、落ち着いてしっかりと対応できるような力を公の場に行ってもできるように付けていきたい。

- 子供たちへの教員の言動が、印象の善し悪しに影響する場合がある。大会等の引率の先生方に見られた。子供たちとの信頼関係にも関わるので注意したい。(鈴木副委員長)

- 中間反省を聞いていただき、各教育施設の行事等をご覧いただき、各委員の方からご感想・ご意見等をいただきたい。(教育長)

→高橋委員長…中間反省から、校長がきめ細かく具体的に先生方を指導している様子がうかがえる。第1回で話題になった「ハザードマップ」を活用したり、先生方や保護者、子供たちとの関わりについて努力している。「学びのスタンダード」では、スキルを身につけ、教科の特質・内容を楽しみ、思考・表現・判断する力を子供たちに身につけるように期待している。

→鈴木副委員長…学校が抱える課題と保護者が気づいている課題、子供たちが考えていることとの乖離がないで安心している。

→蓬田委員…朝早くから夜遅くまで学校に電気がついている様子から、先生方が頑張っていることに頭が下がる。あと半期、大きな事案が起こらないようによろしくお願いしたい。

○高橋委員長より

最近、精神障害(うつ病、統合失調症等)の就労相談が多く、集団面接の場に3倍の人が集まる。企業も2%の採用枠があることから求人を出すが、本当に障がい者のことを理解しているとは思えない。義務教育からのキャリア教育の大切さを感じている。

(5) その他

- ① 11月7日(火)に釀芳幼稚園で川島隆太教授による「家庭教育学級」がある。小・中学校で時間がある先生方に聴講を勧めていただきたい。(教育長)

平成29年度 第3回 第三者評価委員会要項

- ◇ 平成30年5月29日(火)
- ◇ 午後1時30分～
- ◇ 桑折町役場 第2会議室

- 1 開会のことば
- 2 教育長あいさつ
- 3 第三者評価の実施について
 - (1) 評価の概要説明
 - (2) 質疑
- 4 評価の実施(委員長)
 - (1) まとめ
 - (2) その他
- 5 評価の結果報告について
- 6 閉会のことば

桑折町教育委員会

平成29年度 第3回「第三者評価委員会」で話し合われた主な内容（要点）

□ 教育長あいさつ

- 教育委員会が所管する昨年度一年間の教育行政事務事業について、評価を検討し、まとめていただきます。

平成29年度は、町の総合計画「献上桃の郷こおり創生プラン」5か年計画の1年目でありました。この5年間において、歴史と文化の町に相応しい質の高い教育、生涯学習を実現していきたいと考えており、平成29年度は、その第一歩となりました。教育、子育て支援、生涯学習の取組の中で手ごたえや成果は出てきつつあるところがありますが、委員のみなさまには、それぞれの内容、また総合的な評価をお願いします。

桑折町の組織改編が行われました。教育委員会の課、係も再編され、学校教育課、子育て支援課が子ども教育課一つになりました。さらに子ども教育課は、子育て総務係、学校教育係、幼児教育係の3係となり、子育て総務係が教育委員会所管事務の評価の担当となりました。生涯学習課は、生涯学習係に加えて、まちづくり課にあった歴史文化係が戻って参りました。そのため、評価していただく内容は、すべて教育委員会所管となりますので、よろしくお願いします。

□ 自己紹介 こども教育課長、生涯学習課長、子育て総務係長

□ 評価の概要説明 事務局より説明。

□ 質疑

(1) 学校教育課の重点「生きぬく力」から「生きる力」に変わった経緯について

- 「生きぬく力」とは、震災以降、不透明な社会を子ども達が生きぬいて行く力をつけさせるという意味で使われています。「生きる力」は、もっと全体的なことで、十数年使われている言葉であり、そこには「生きぬく力」も含まれています。また、学習指導要領にも生きる力の育成が、基本的な方針として継続されているため「生きる力」に戻したものです

（会田教育長回答）

□ 評価の結果報告

- 高橋委員長より教育長へ報告
 - ・ 評定原簿の提出

《高橋委員長からのまとめと報告》

- 各課の重点施策・重点項目等が、町教育委員会の基本方針、基本目標・重点施策を受け、昨年度にも増して具体的に計画され実践されている。評価もきめ細かに行われており、本年度の改善等に具体的に生かされることを期待する。
- 町教育委員会が「15歳のめざす姿」を明示し、保育所・幼稚園・小学校・中学校がそれに向かって、つなぎを意識しながらも、それぞれの特色を生かしながら知・徳・体のバランスのとれた保育・教育に取り組んでいる。
- 学校教育の課の重点の中の「生きぬく力」が「生きる力」になったことは良いと思う。私個人の意見であるが、「生きぬく力」は、この厳しい社会を、この不寛容の時代を生きぬかなくてはならないという意識が感じられる。それよりも、子どもの立場に立てば、「生きる力」は生きる喜び（分かる喜び、できる喜び）生きる楽しさ（共に活動する楽しさ）等々を実感しながら生きていくことであり、全国で不登校や引きこもりが過去最高になる中、教師の共感的雰囲気の中で子ども自ら「生きる力」を育んでいくことだと思う。
- 乳幼児の保護者に対し特別支援の理解を図ったことは良いことだと思う。小さな子は活動的であり、特別支援の配慮は、どの子にも生かせるものである。（ユニバーサルデザイン）また、地域のサロンで交流したことは、乳幼児にとってもお年寄りにとっても豊かな経験であり、有意義なことだったと思われる。
- 幼稚園の統合ご苦労様。様々な配慮で今のところ大きな問題もなく、新しい、しかも広い環境の中で活動できていることは喜ばしいことである。

- 学力向上については、教育委員会の指導訪問が各校2回に増えるなど、教育委員会の積極的な取り組みが分かる。また、先生方の授業研究会の多さなど、先生方が教育委員会の指導のもと、熱心に研修に取り組んでいる様子が伺い知れる。中学校の学力テスト全てが県平均を上回ったという素晴らしい結果にも結び付いている。
- 教材研究の基本は学習指導要領なので、その研修を深めるとともに、すでに行っていることではあるが、電子黒板やデジタル教科書に頼りすぎず、授業が終われば、めあてから、学習内容、まとめ等振り返れるような板書計画（正面の黒板）等についても研修を深めて欲しい。
- 保幼小中とも管理職が家庭・地域との連携を強く意識し、リーダーシップをとって、幼児・児童・生徒の生活習慣等の育成に取り組んでいる。地域の教育力を生かして、地域で豊かな人間性を育していく体制作りが必要と思われる。
- いじめ・不登校対策として、SC、SSWの配置、QU検査の活用等よくなされている。その結果、中1年生の不登校の出現が減ったのは大きな成果である。発達障がいやその二次障がい等も考慮しながら地域全体で取り組む体制作りが必要と思われる。
- 福祉の場において、様々な相談を受けると、「キャリア教育」の重要性を感じる。新たなことをやるのでなく、教師が様々な授業の中で、キャリア教育の視点を持つことだと思う。
- 幼小中共に、家庭の協力の格差が問題にあげられている。ガイドブックの作成・配付、うち読書の推進等と努力はしているが、なかなか浸透していかないようである。じっくりと啓発活動を行っていくしかないと思う。
- 読書活動の推進については、これも上記のように各家庭での格差が大きいようである。テレビのニュースで「読書離れで全国で書店が閉店になっているが、書籍の購買一番の都市は東京や横浜と思いきやそうではなく、盛岡である。盛岡市民には文学に対する土壌、風土がある。」と言っていた。桑折町でも、PTAや関係機関と連携し、町をあげて地道に根気強く読書の風土を醸成していかなくてはならないと思う。
- 町の文化財に関しては、いろんなイベントを企画し、町内外に歴史の町についてよく広報していると思う。すでに行われているが、今後も西山城の調査や公開が楽しみである。